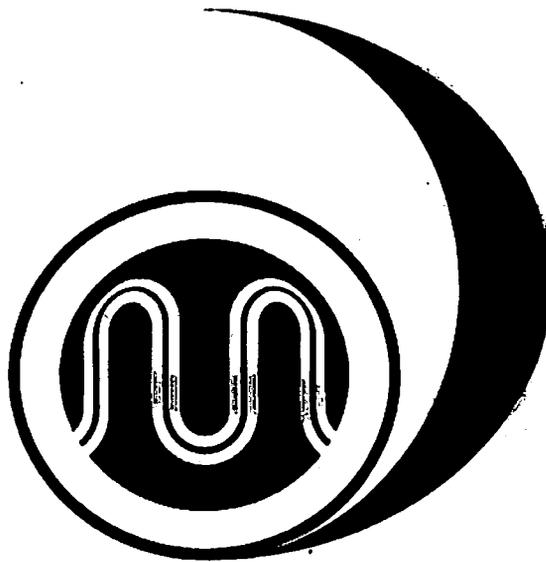


第264回
地震防災対策強化地域判定会
委員打合せ会

記者レクチャー資料



平成20年6月3日

気象庁

この資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

目次・概況

【地震活動】

1 頁 2008 年 4 月の活動

想定震源域及びその周辺で発生した $M \geq 3.0$ の地震は、

15 日	伊豆半島東方沖	深さ 14km M3.2
15 日	新島・神津島近海	深さ 14km M3.0
20 日	愛知県西部	深さ 37km M4.3

南関東における $M \geq 3.5$ の地震は、

1 日	東京都 2 3 区	深さ 90km M3.8
4 日	茨城県南部	深さ 53km M5.0
5 日	茨城県沖	深さ 47km M4.2
6 日	茨城県南部	深さ 60km M4.3
7 日	茨城県沖	深さ 47km M3.7
10 日	千葉県北西部	深さ 68km M4.1
18 日	茨城県南部	深さ 90km M3.7
19 日	福島県沖	深さ 46km M3.6
25 日	千葉県東方沖	深さ 48km M4.8
28 日	東京湾	深さ 70km M3.5

静岡県西部（森町・掛川市付近）の深さ約 16km の地殻内で 2007 年 11 月から活発になっている地震活動は、低いレベルで継続している（4 月中の最大は 19 日の M1.7）。

神奈川県西部（箱根付近）で、4 月 4 日（最大 M2.6）および 4 月 16 日～18 日（最大 M1.5）にまとまった浅い地震活動があった。

その他の地域で目立った地震は、

6 日	三重県南東沖	深さ 43km M4.1
23 日	八丈島東方沖	深さ 60km M5.3
29 日	八丈島東方沖	深さ 63km M4.6

2 頁 2008 年 5 月の活動（1 日～31 日）

想定震源域及びその周辺で発生した $M \geq 3.0$ の地震は、

6 日	静岡県西部	深さ 18km M3.3
-----	-------	--------------

南関東における $M \geq 3.5$ の地震は、

1日	千葉県東方沖	深さ 36km M4.6
2日	千葉県北東部	深さ 41km M3.9
8日	茨城県沖	深さ 51km M7.0 他
(この領域で発生した前震一本震余震で $M3.5$ 以上は 86 回)		
9日	千葉県北西部	深さ 74km M4.6
9日	千葉県北西部	深さ 71km M4.0
26日	千葉県北西部	深さ 53km M3.8

静岡県西部（森町・掛川市付近）の深さ約 16km の地殻内で 2007 年 11 月から活発になっている地震活動は、収まりつつある（5 月中の最大は 4 日深さ 16km の $M1.5$ ）。

浜名湖の東岸と西岸で地震活動があった（17 日深さ 25km $M1.8$ や 21 日深さ 29km $M2.4$ など）。

その他の地域で目立った地震は、

12日	長野県南部	深さ 10km M4.0
-----	-------	--------------

3-4 頁 発震機構（最近 2 ヶ月）

東海地方での地震は、

- 8: 4 月 20 日 愛知県西部の地震は、東北東-西南西に張力軸をもつ横ずれ断層型。
- 12: 5 月 3 日 静岡県中部の地震は、東西に張力軸をもつ横ずれ断層型。
- 13: 5 月 6 日 静岡県西部の地震は、北西-南東に圧力軸をもつ横ずれ断層型。
- 17: 5 月 27 日 愛知県西部の地震は、北西-南東に張力軸をもつ型。

[主な地震活動]

5 頁 5 月愛知県の低周波地震活動と歪変化

5 月 15 日から 19 日にかけて、愛知県で深部低周波地震活動が観測された。同時期に、周囲の歪計で歪変化が観測された。

9 頁 低周波地震活動とスロースリップ

5 月 15 日頃から 19 日頃にかけて、深部低周波地震活動の活発化と短期的スロースリップの発生が観測された。同様な現象は、2008 年 1 月 1 日頃から 1 月 10 日頃にかけても観測されている。

10 頁 浜名湖付近の地震活動（フィリピン海プレート内）

5 月 16 日から 22 日にかけて、浜名湖南付近でまとまった地震活動が発生した。これまでの最大は、21 日の $M2.4$ である。フィリピン海プレート内で発生した地震であ

る。

11 頁 浜名湖 (1995/01/01~2008/5/31 M \geq 1.1 : フィリピン海プレート内)

[東側] 2000 年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下していた。2007 年 5 月~9 月は一旦回復したが、10 月以降は再び低下した。そのような状況の中、2008 年 2 月 1 日に浜名湖の北東で M3.1 の地震が発生した。5 月 17 日から 22 日にかけては、ややまとまった地震活動が浜名湖南の東岸・西岸で発生した。

[西側] 2006 年以降低調であるが、最近 3 回地震が発生したため短期活動指数はほぼ平常の 5 になっている。中期活動指数はほぼ平常の 3 である。

12 頁 静岡県西部の地震活動 (地殻内)

静岡県西部 (森町・掛川市境界付近) の深さ約 16km の地殻内で、昨年 11 月から続いている地震活動は、低いレベルで継続している。

13 頁 5 月 6 日静岡県西部の地震 (地殻内)

5 月 6 日に静岡県西部で M3.3 の地震が発生した。陸域の地殻内で発生した地震である。

[活動指数等の資料]

14-17 頁 活動指数

固着域：地殻内中期は活動指数がやや高い(7)。その他はほぼ平常 (5)。

M2.0 以上の地震 (15 頁) は、ほぼ平常 (4~6)。

愛知県：ほぼ平常(4~6)。

M2.0 以上の地震 (16 頁) は、地殻内 90 日間はやや低い(2)が、地殻内 180 日間やプレート内はほぼ平常(3~4)。

浜名湖：東側の短期はほぼ平常に回復(5)している。西側も過去 90 日間で 3 回地震が発生したことから、短期はほぼ平常(5)になっている。中期はほぼ平常(3~4)。

駿河湾：やや低い(2)。

18-20 頁 固着域

(最近の 90 日間)

[地殻内]

2007 年 11 月半ばから活発な静岡県西部 (森町と掛川市の境界付近) の地震活動

は、低いレベルで継続している。2008年5月6日にはその北西でM3.3の地震が発生したが、特に地震活動の活発化は見られなかった。

[フィリピン海プレート内]

特に目立った地震活動はない。

(1997/01/01～2008/5/31 M \geq 1.1)

[地殻内]

静岡県西部の地震活動活発化は、1997年以降では珍しい規模の回数増加であった(左下)。

クラスタ除去後の地震回数積算図(右下)を見ると、2000年半ばまでは傾きが急で活発、その後2005年半ばまではやや傾きが緩やかで低調、2005年半ば以降は活発、という傾向が見られる。

その地震活動変化は、長期的スロースリップの進行・停滞に対応しているように見える。

(1997/01/01～2008/5/31、M3.5以上は1987/09/01～2008/5/31)

[フィリピン海プレート内]

M3.5以上の地震発生回数を見ると、2001年後半ごろから少ない。そのような状況の中、2006年12月16日に静岡県中部でM4.0、2007年8月31日に静岡県西部でM4.3、さらに2008年1月20日に静岡県西部でM4.0の地震が発生した。1998年後半～2000年前半にも静穏な時期があった。

M2.0以上では2005年半ば以降やや静穏であったが、2007年に入って回復。

【地殻変動】

21頁 歪計観測点配置図

22-24頁 体積歪計

蒲郡で2008年5月15日頃から19日頃にかけて歪変化が観測された。これと同様の変化は、最近では2007年10月6日頃から12日頃及び2008年3月2日頃から7日頃にかけて観測された。

伊良湖及び蒲郡

2007年10月6日頃から12日頃にかけて歪変化が観測された。この歪変化は、春野・佐久間・浜北の多成分歪計で観測された歪変化とほぼ同期していた。

- 伊良湖 2008年3月2日頃から7日頃にかけて歪変化が観測された。
- 蒲郡 2008年5月15日頃から19日頃にかけて歪変化が観測された。
- 三ヶ日 2007年5月下旬から、降水に伴う局所的な変化が見られた。2007年7月下旬に見られる縮みとその後の回復の変化は、毎年夏になると見られるものであると思われ、水位の変化と相関があり、並行観測している旧観測点でも同様の変化が見られる。
2008年5月12日の中国四川省の地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化が見られた。
- 川根 2008年5月12日の中国四川省の地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化が見られた。
- 静岡 2007年5月以降の伸び変化は、例年見られるものである。

25-29 頁 多成分歪計（掛川、春野、佐久間、本川根、浜北）

春野及び佐久間で2008年5月15日頃から19日頃にかけて歪変化が観測された。これと同様の変化は、最近では2007年6月15日頃から17日頃、2007年9月26日頃から10月2日頃、2007年10月6日頃から12日頃及び2008年1月1日頃から10日頃にかけて観測された。

春野、佐久間、本川根および浜北

2007年9月26日頃から10月2日頃にかけて歪変化が観測された。

春野、佐久間および浜北

2007年10月6日頃から12日頃にかけて歪変化が観測された。

この歪変化は、伊良湖・蒲郡の体積歪計で観測された歪変化とほぼ同期していた。

掛川、春野、佐久間及び本川根

2008年1月1日頃から10日頃にかけて歪変化が観測された。

春野及び佐久間

2008年5月15日頃から19日頃にかけて歪変化が観測された。

掛川

2007年5月19日以降、及び、11月30日以降、歪2及び歪3でセンサーのごく近傍の局所的な変化が見られた。

2008年1月28日及び3月22日に歪4でセンサーのごく近傍の局所的な変化が見られた。

2008年2月3日以降、歪1でセンサーのごく近傍の局所的な変化が見られた。

2008年5月8日の茨城県沖の地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化が見られた。

2008年5月9日に歪2でセンサーのごく近傍の局所的な変化が見られた。

春野

平成19年(2007年)新潟県中越沖地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化が見られた。

2008年5月8日の茨城県沖の地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化が見られた。

2008年5月12日の中国四川省の地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化が見られた。

本川根

2007年6月15日頃から17日頃にかけて歪変化が観測された。この歪変化と同期して、春野、佐久間で若干の歪変化が認められた。

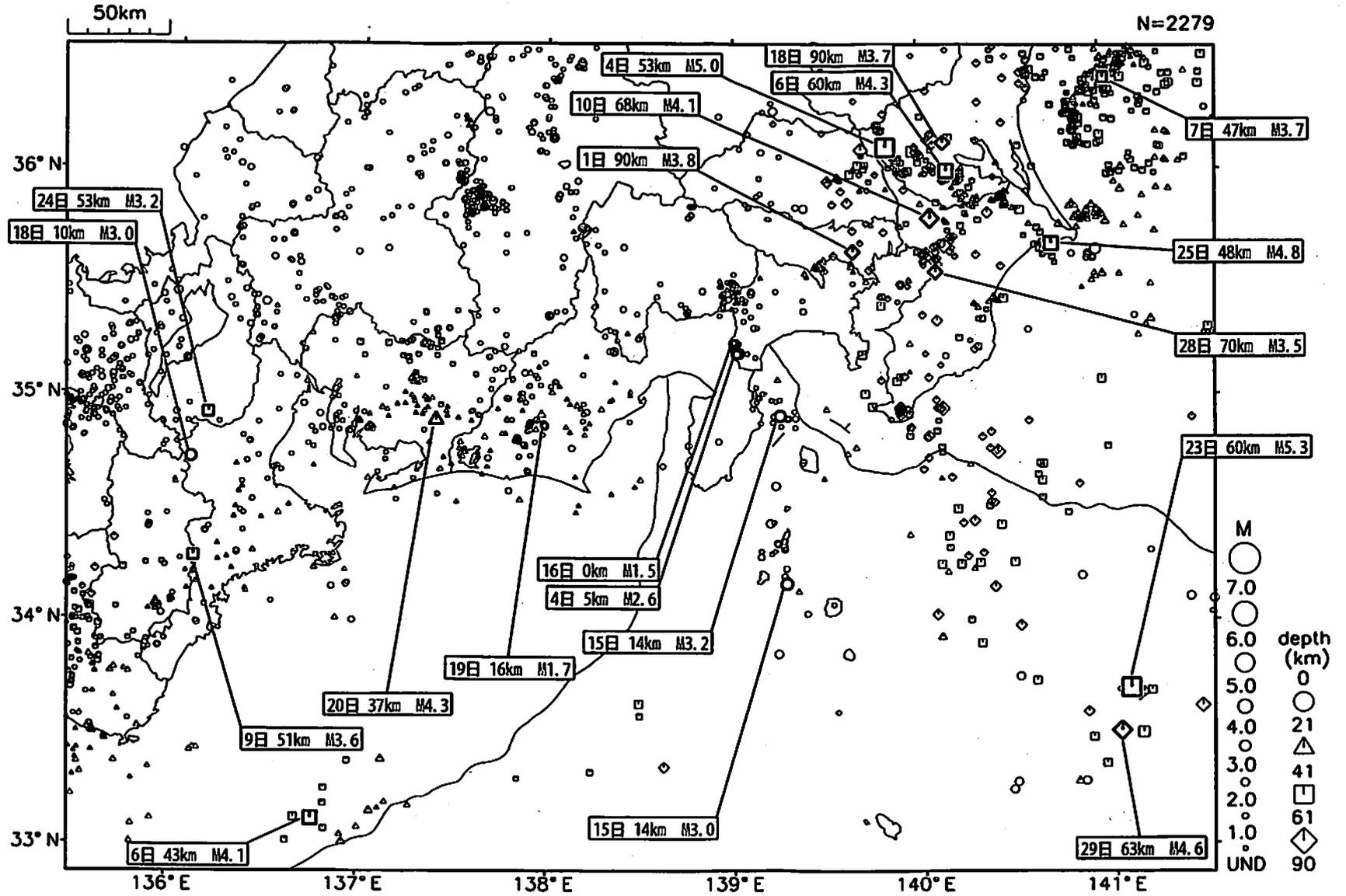
浜北

平成19年(2007年)新潟県中越沖地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化が見られた。

2008年5月8日の茨城県沖の地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化が見られた。

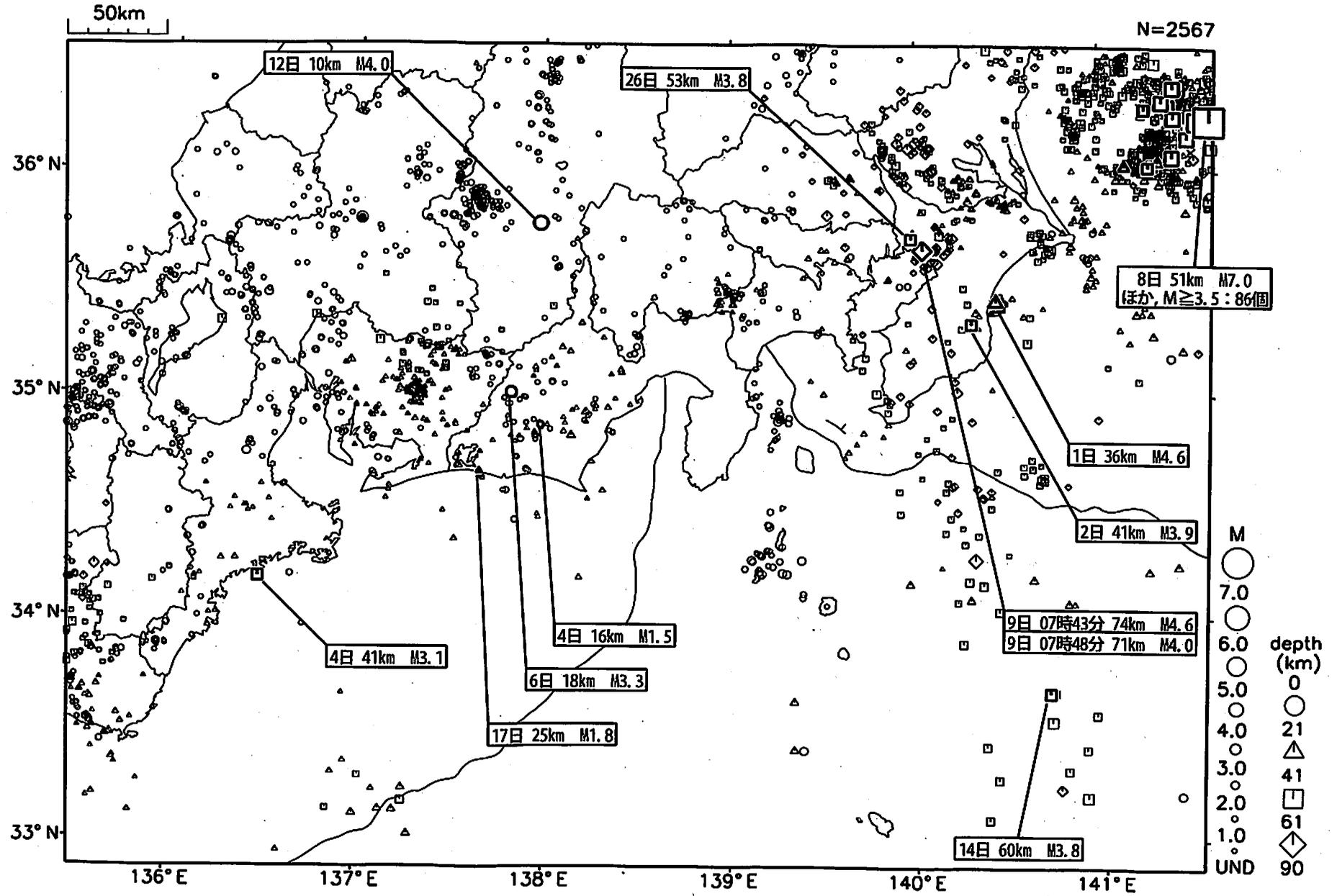
2008年5月12日の中国四川省の地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化が見られた。

東海・南関東地域の地震活動 2008年4月



気象庁作成

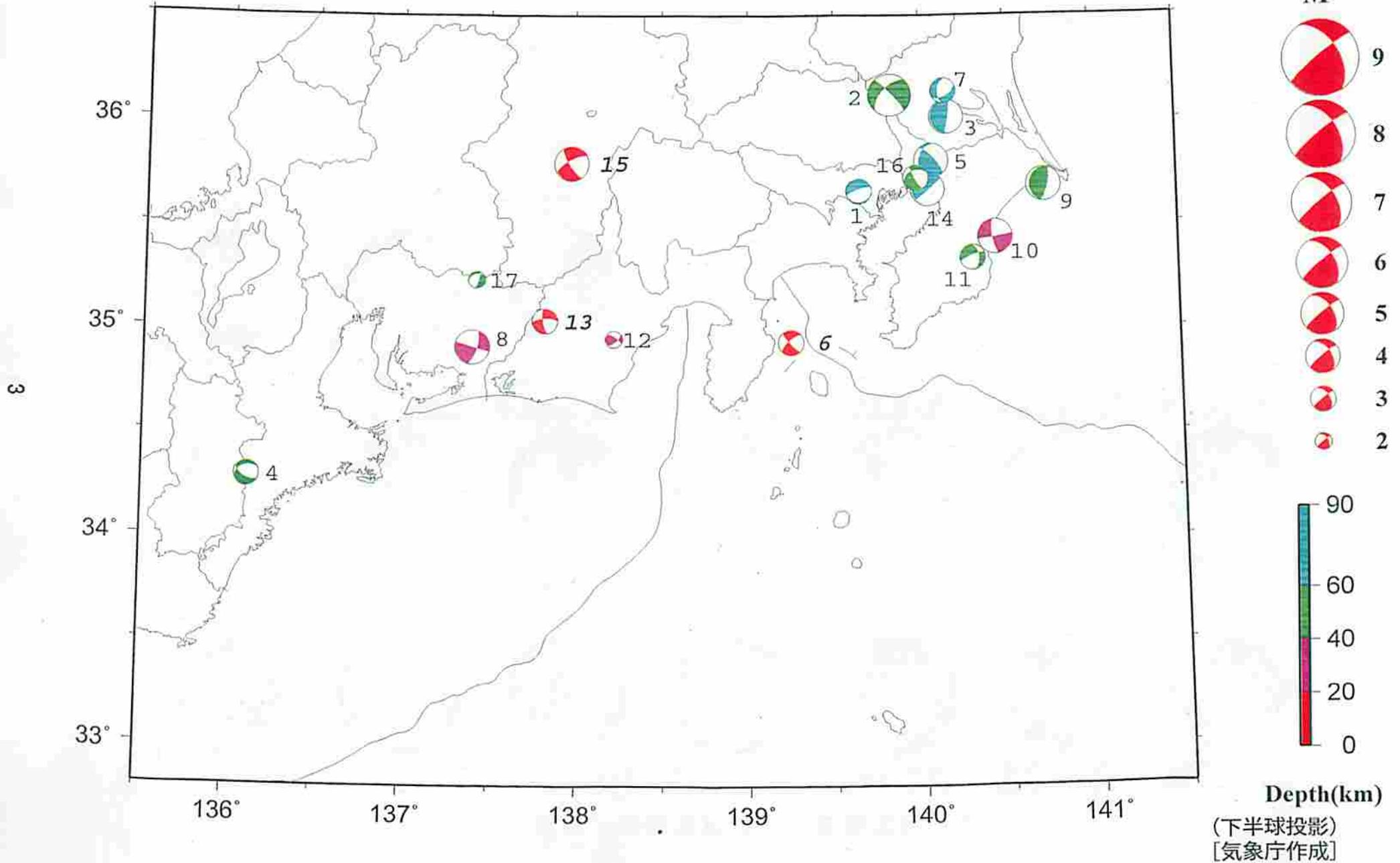
東海・南関東地域の地震活動 2008年5月



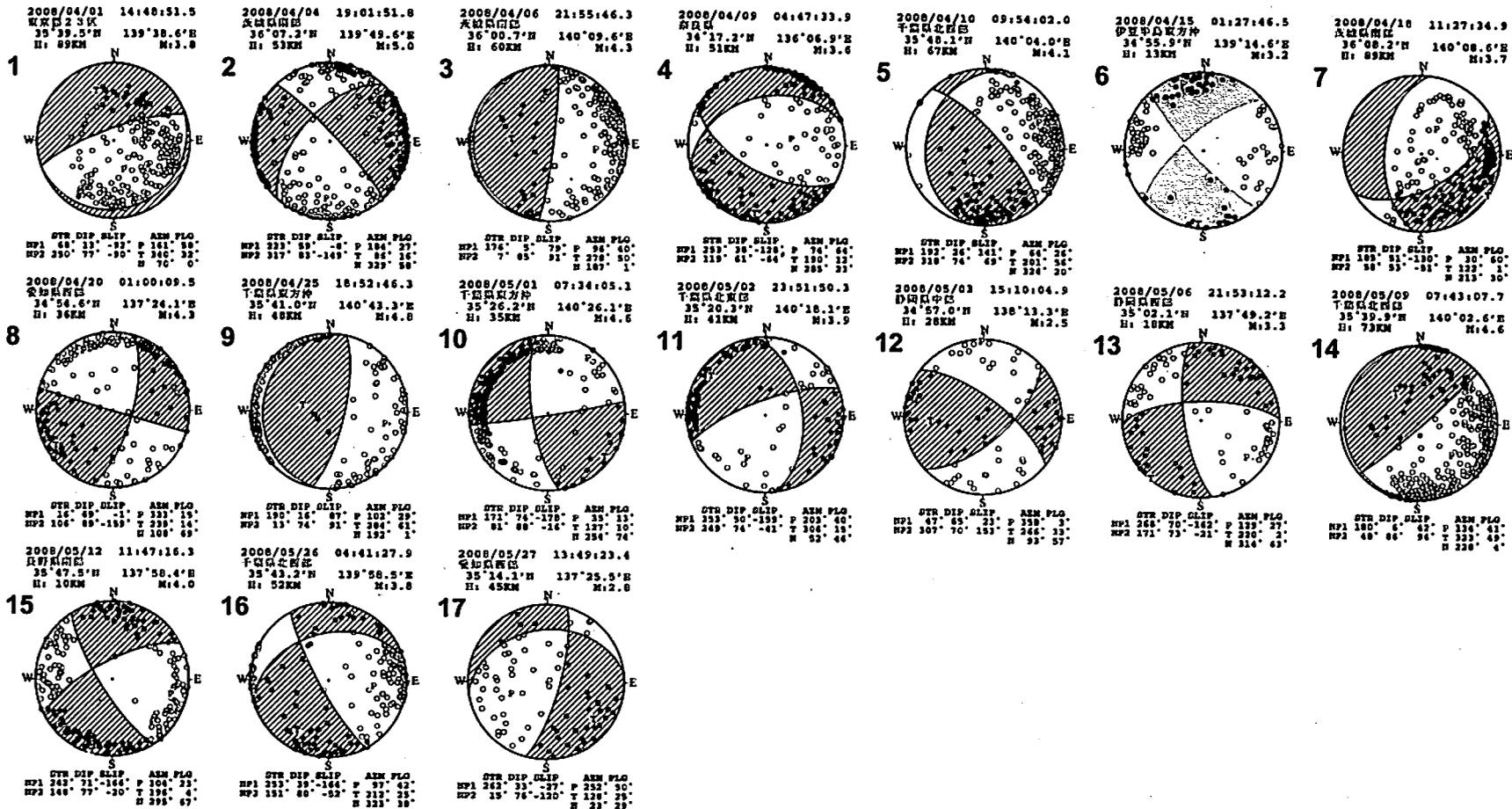
2

東海・南関東地域の発震機構解 (1)

Period:2008/04/01 00:00--2008/05/31 24:00



東海・南関東地域の発震機構解 (2)

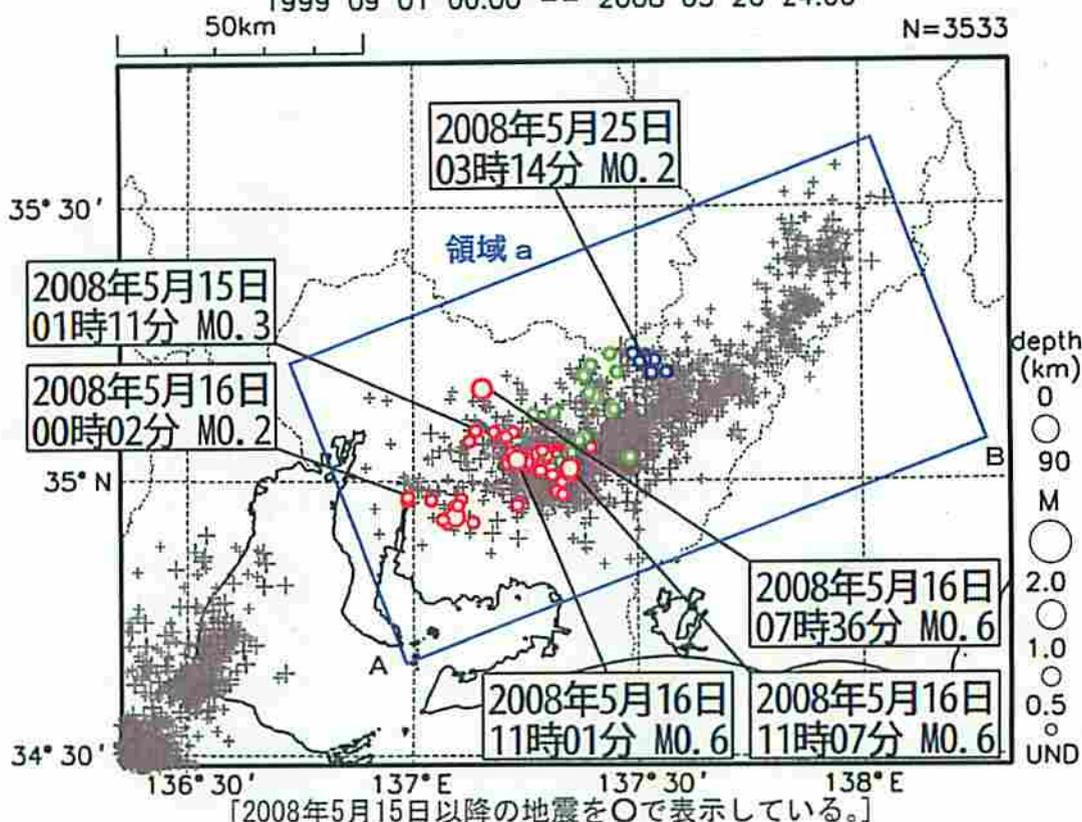


(下半球投影)
[気象庁作成]

2008年5月 愛知県 低周波地震

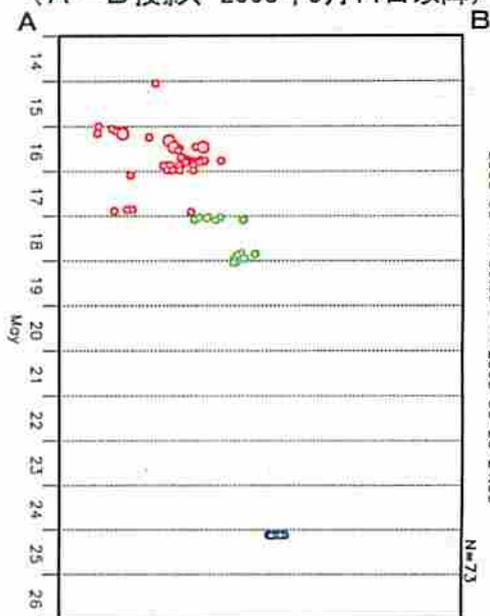
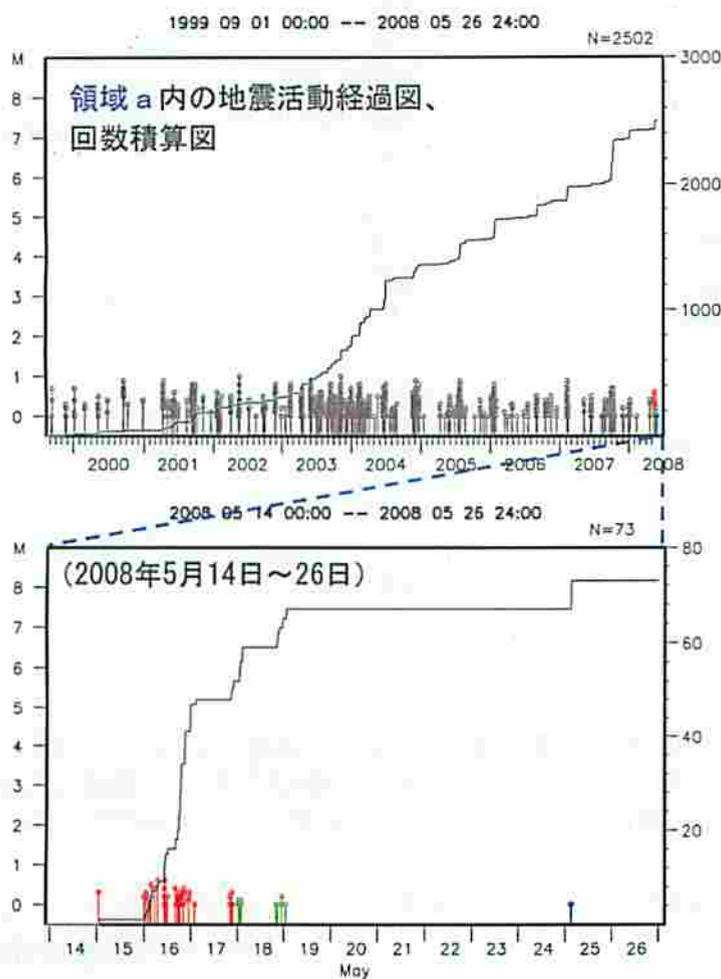
震央分布図（低周波地震のみ、1999年9月以降、Mすべて）

1999 09 01 00:00 -- 2008 05 26 24:00



領域 a 内の時空間分布図

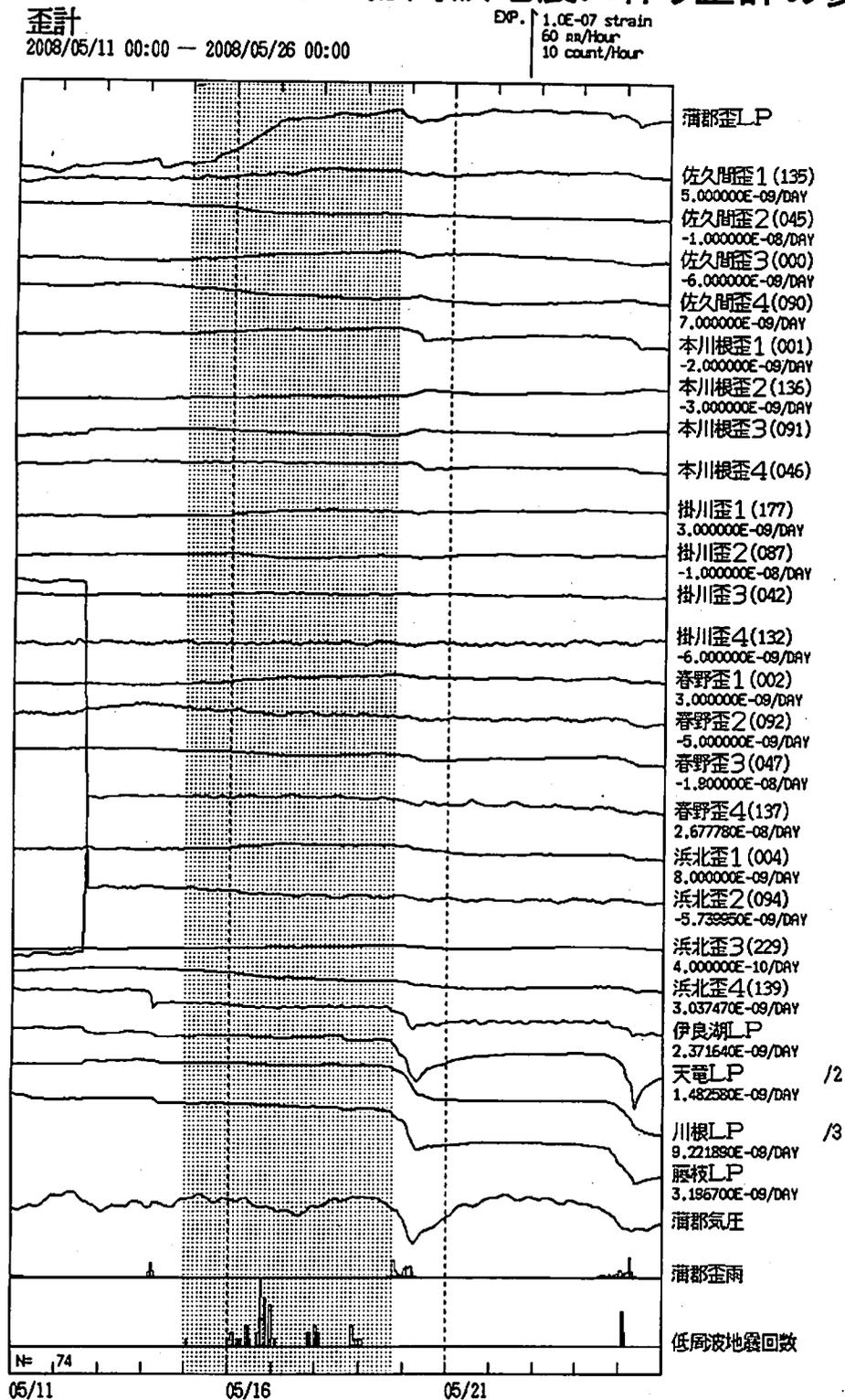
(A-B投影、2008年5月14日以降)



愛知県で2008年5月15日01時11分に低周波地震が発生した。翌16日00時02分より19日00時49分にかけて震源が北東に移動するように低周波地震活動（最大:16日M0.6）が発生し、この活動と同期して歪計に変化が見られた。

さらに、25日02時49分から同日03時14分にかけて、19日までの活動域の北東で低周波地震活動（最大M0.2）があった。25日の活動では歪計に明瞭な変化は見られていない。

2008年5月15日からの低周波地震に伴う歪計の変化

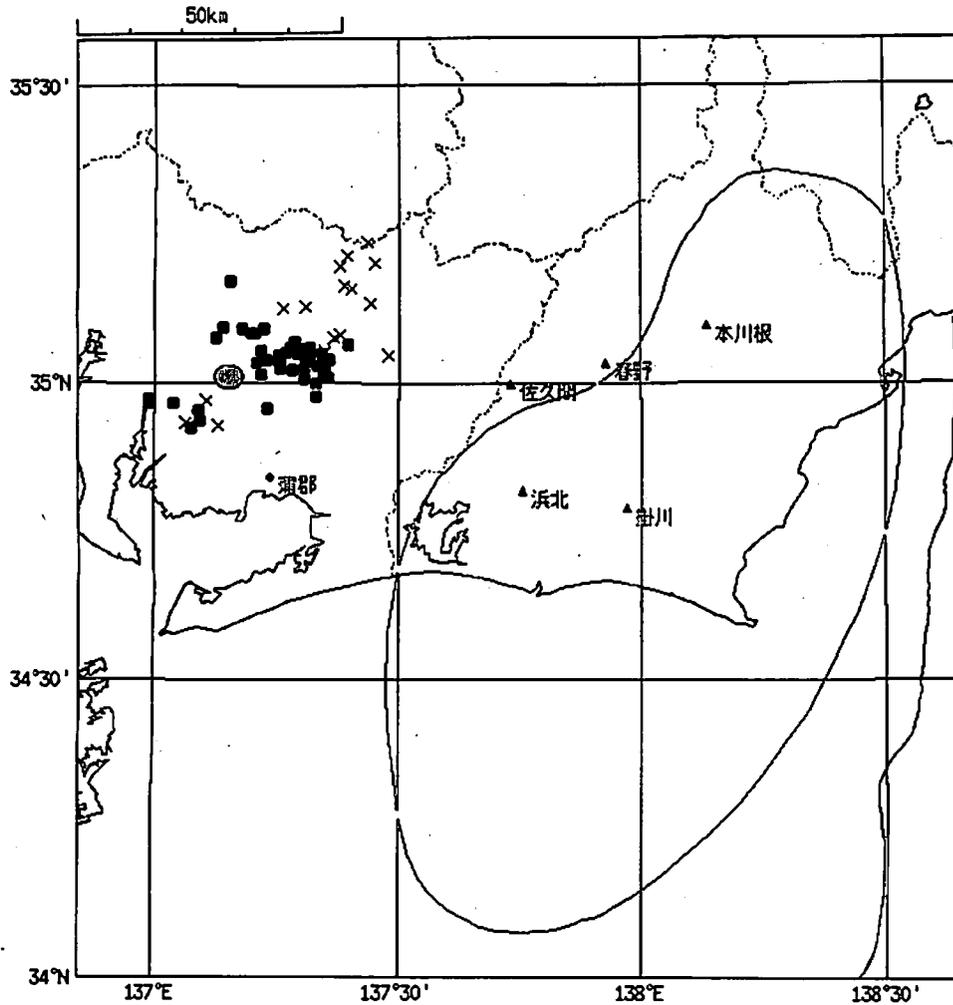


蒲郡、佐久間等の歪計において、5月15日以降、低周波地震活動と同期した変化が認められている。蒲郡の歪変化は5月16日でだいぶ収まったように見えるが小さいながらも伸びの変化は継続しており、佐久間や本川根等の歪変化も小さいながらも継続しているように見えたが、5月19日夜からの降水により歪変化は不明瞭になった。

なお、5月12日に浜北2や春野4等で現れている変化は、中国の地震(M7.9)による影響である。

気象庁作成

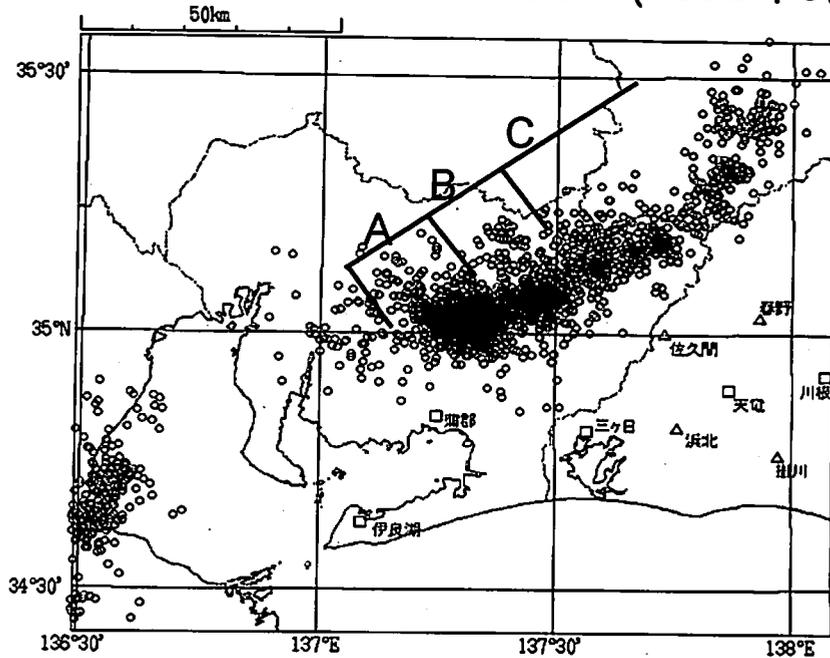
低周波地震の震源分布と、歪計の変化から推定したすべりの位置



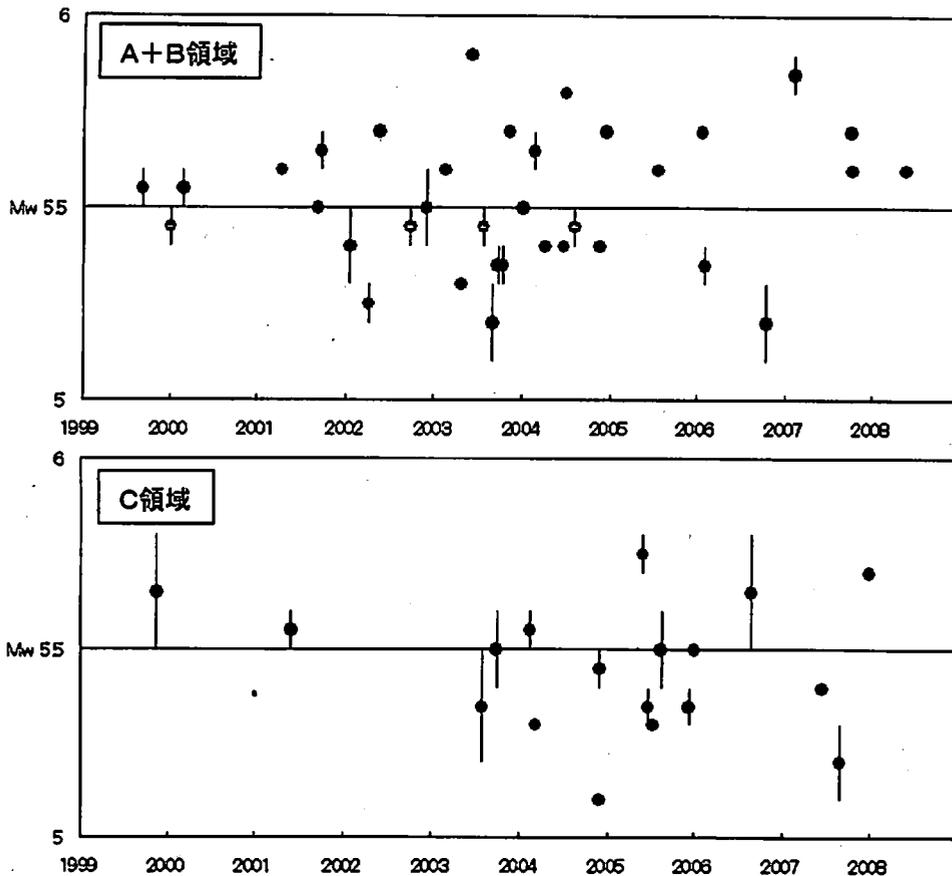
- ※ ●は、2008年5月15日から5月16日に発生した低周波地震の震源を示す。
- ※ ×は、2008年5月17日から5月19日に発生した低周波地震の震源を示す。
- ※ 灰色の領域は、推定すべりの候補点の位置を示す。

推定すべりの規模は、Mw5.6。

東海地域の短期的スロースリップ(1999年9月以降)



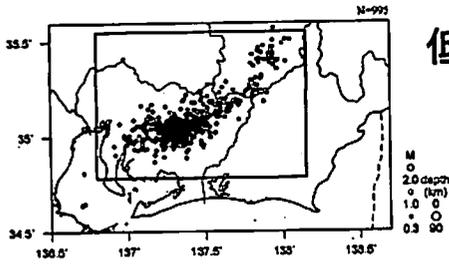
東海地域の低周波地震の震央分布図(1999年9月1日～2008年5月20日)
 A, B, Cは過去の短期的スロースリップ発生領域
 □: 体積歪計 △: 多成分歪計



東海地域の短期的スロースリップのMT図(1999年9月以降)
 各事例の縦線は推定規模(Mw)の上限から下限、●は上限と下限の中間値を示す。

(気象庁・気象研究所作成)

低周波地震の震央分布図

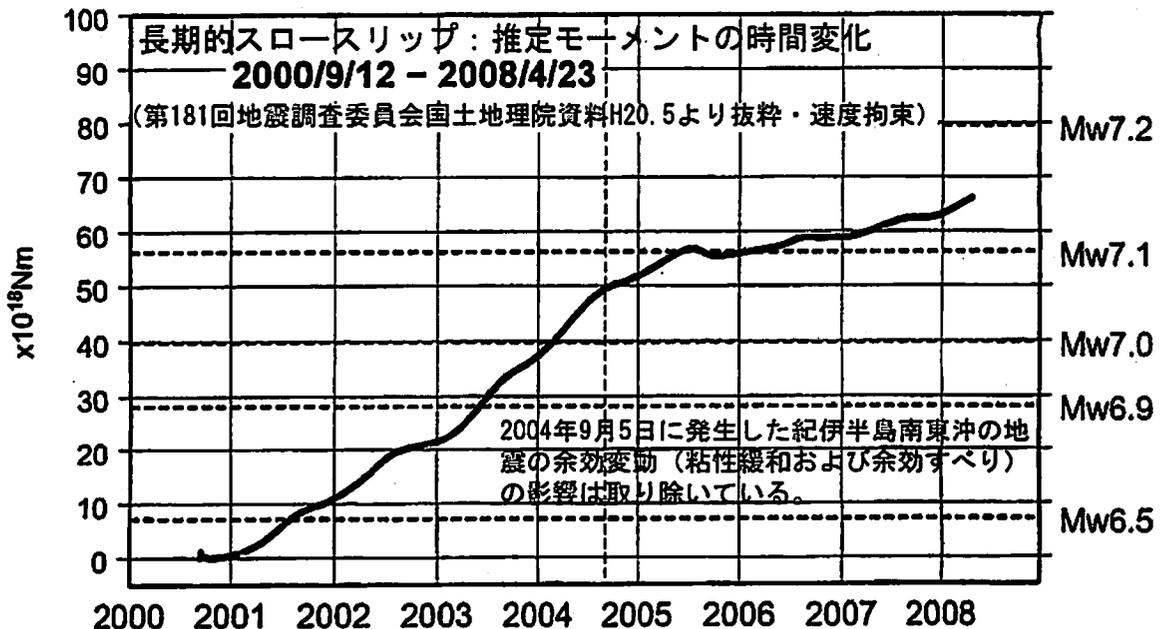
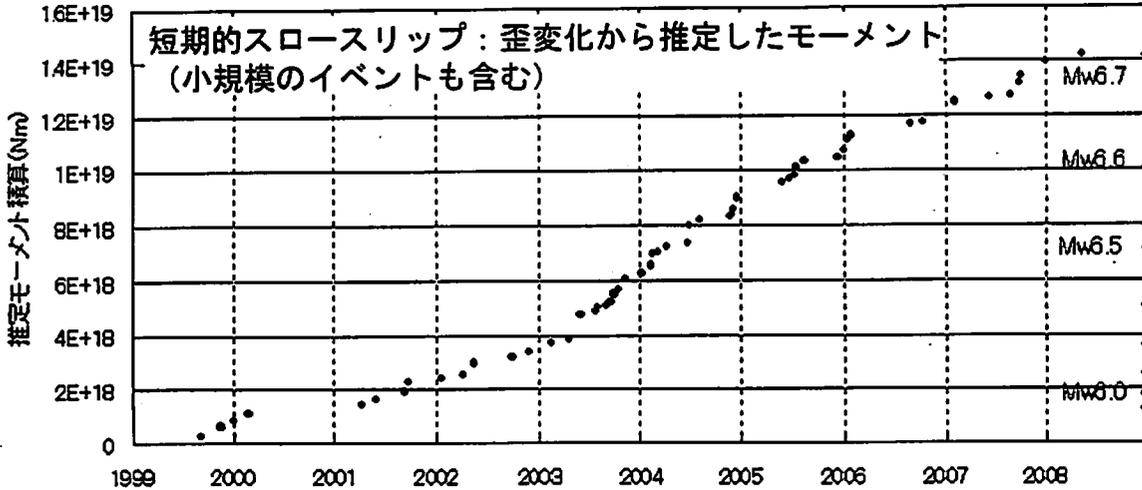
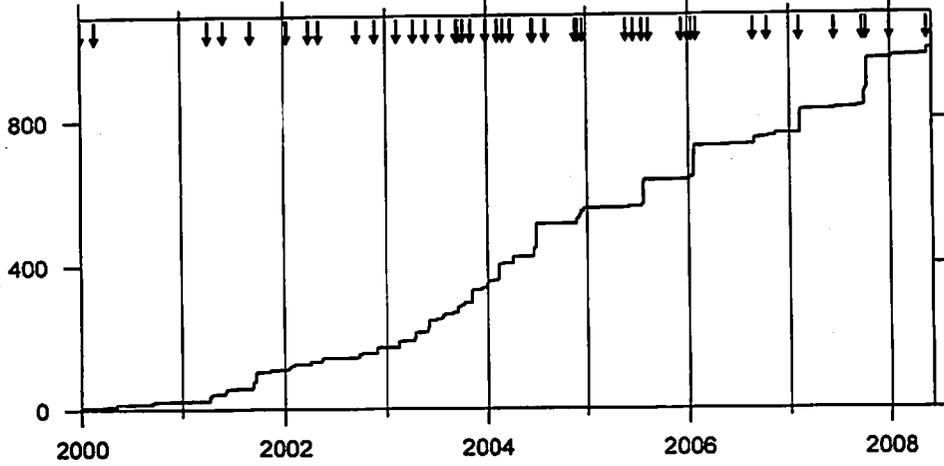


低周波地震活動とスロースリップ

2000/1/1~2008/5/31 M ≥ 0.3

矩形内の地震回数積算図

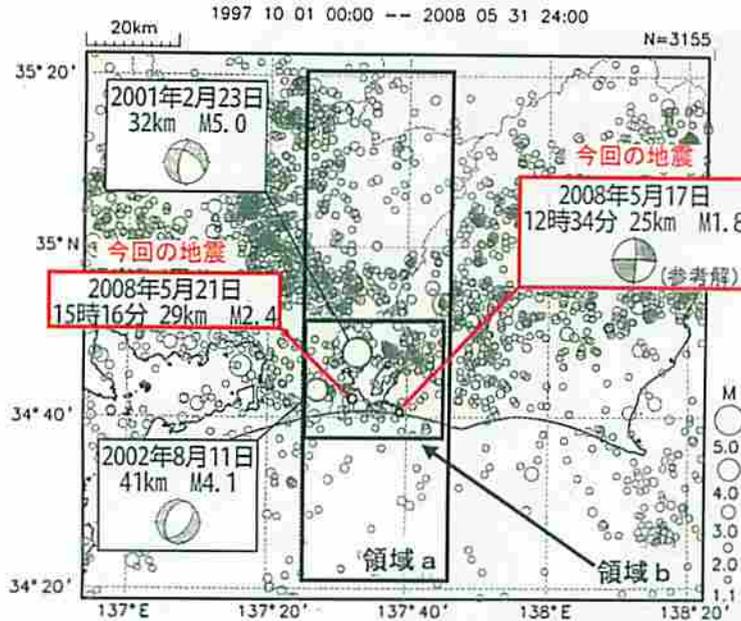
(↓: 短期的スロースリップイベントによる歪変化が見られた時期)[小さな歪変化も含む]



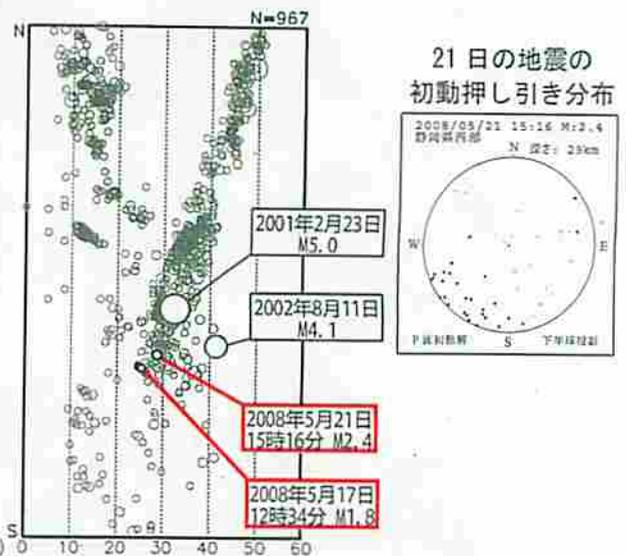
2008年5月15日頃から19日頃にかけて、低周波地震活動の活発化(愛知県)と短期的スロースリップの発生が観測された。

浜名湖付近（静岡県西部）の地震活動

震央分布図（1997年10月1日～2008年5月31日、
深さ20～60km、 $M \geq 1.1$ ）
（2008年5月以降の地震を濃く表示）



領域a内の断面図
（南北投影、深さ0～60km）
1997年10月1日00:00 -- 2008年5月31日24:00

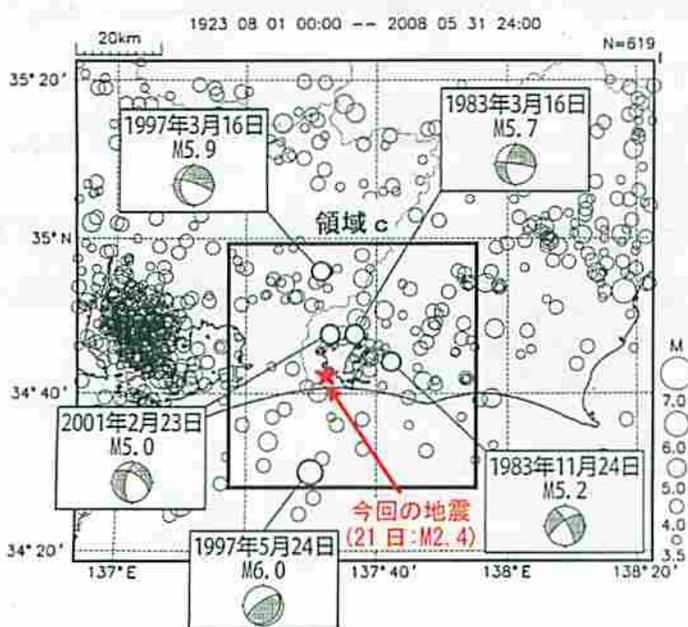


2008年5月に浜名湖付近（静岡県西部）で以下の地震があった。いずれもフィリピン海プレート内部で発生した地震である。

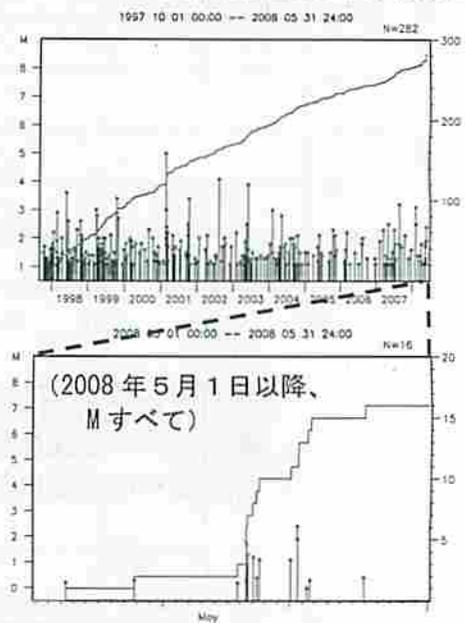
- ・ 5月17日12時34分、深さ25km、 $M1.8$ 。発震機構（参考解）は北東－南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型。発生直後に小規模な地震活動が見られたが、18日までにはほぼ収まった。
- ・ 5月21日15時16分、深さ29km、 $M2.4$ 。発震機構は求まっていないが、P波初動の押し引き分布は北東－南西方向に張力軸を持つ型であることを示唆する。

1923年8月以降、今回の地震の震央付近では1997年5月24日の $M6.0$ （最大震度3）の地震が最大である。

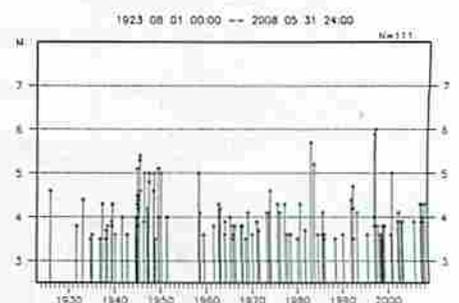
震央分布図（1923年8月1日～2008年5月31日、
深さ0～90km、 $M \geq 3.5$ ）



領域b内の地震活動経過図、回数積算図



領域c内の地震活動経過図

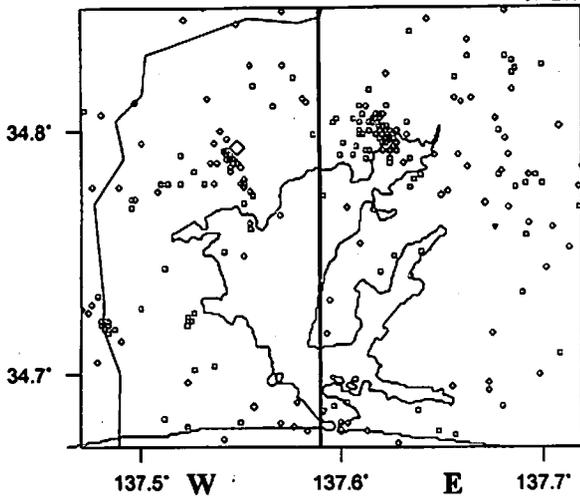


浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2008/ 5/ 31 M≥1.1 *クラスタ除去したデータ

震央分布図

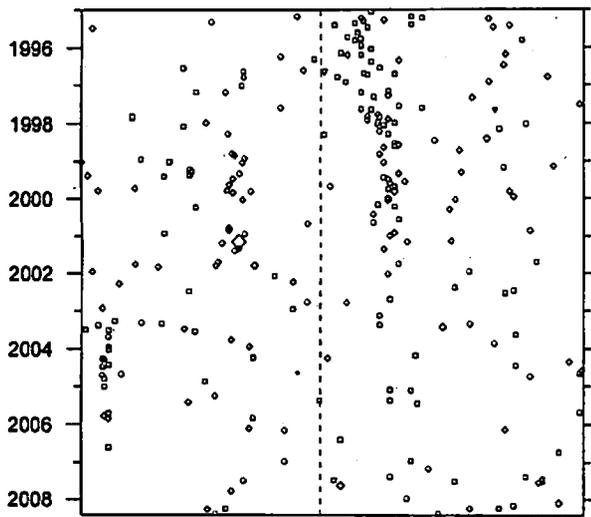
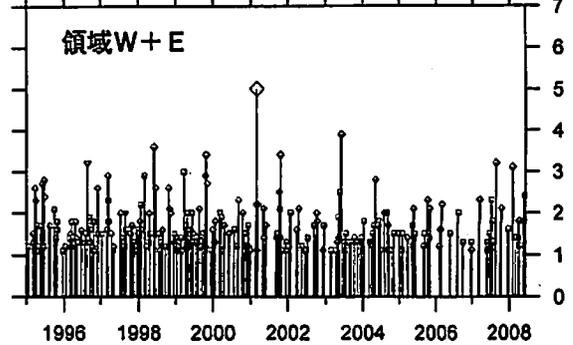
N=247



depth (km)
 M 0 10
 7.0 10 △
 6.0 20 ○
 5.0 30 ◇
 4.0 40 ▽
 3.0 50 +
 1.1 60

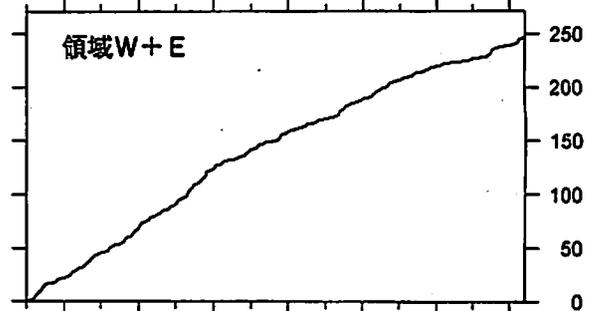
*吹き出しは最近60日以内、M≥3.0
 地震活動経過図（規模別）

n=247

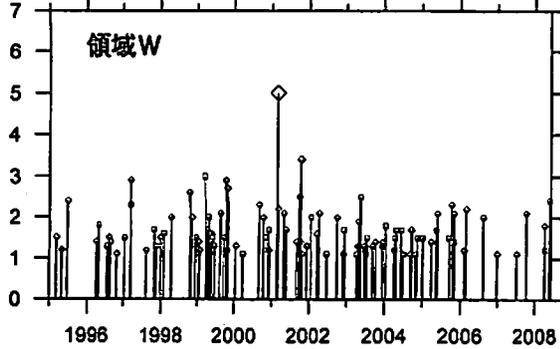


時空間分布図（東西方向）

地震回数積算図

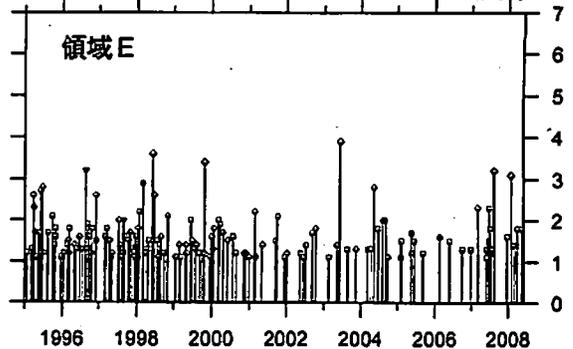


n=102

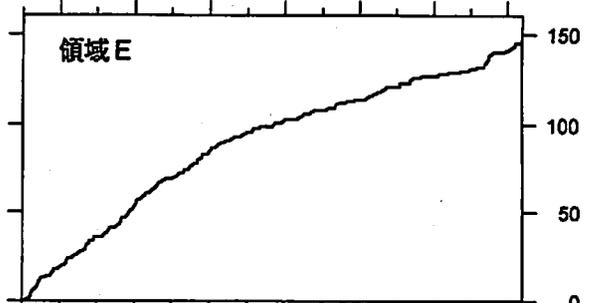
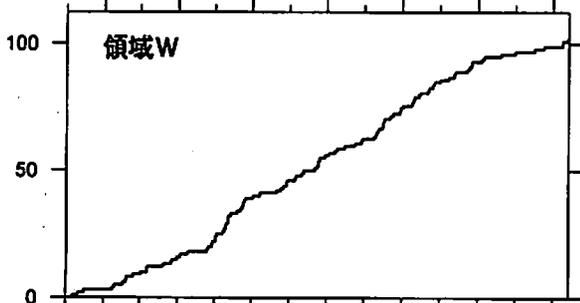


地震活動経過図（規模別）

n=146



地震回数積算図



2000年後半から浜名湖北岸にあるクラスタの活動が低下し、東側全体の活動レベルが低下していた。2007年5月～9月は一たび回復したが、10月以降は再び低下した。そのような状況の中、2008年2月1日に浜名湖の北東でM3.1の地震が発生した。5月16日から22日にかけては、ややまとまった地震活動が浜名湖南の東岸・西岸で発生した。

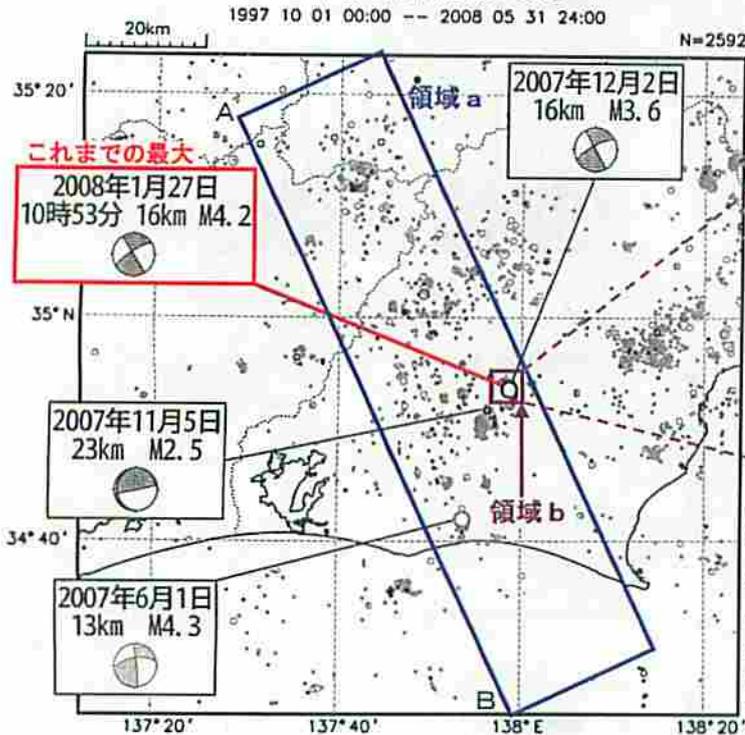
気象庁作成

静岡県西部の地震活動

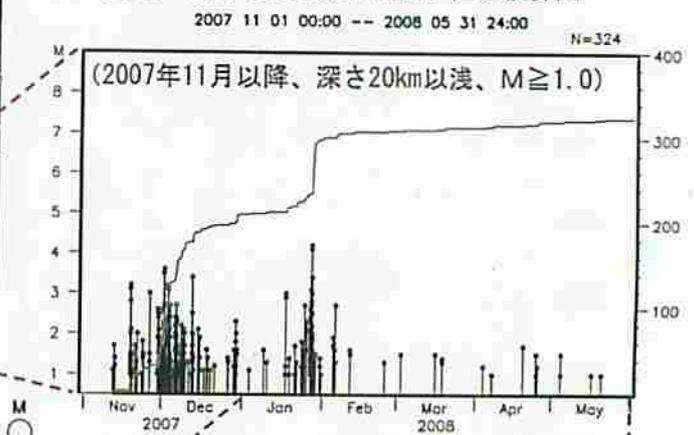
静岡県西部の地殻内で2007年11月12日頃から続いている地震活動は、2月中旬以降低いレベルで継続している。

これまでにこの地震活動（領域b）では、M3.0以上の地震が15回、震度1以上を観測した地震が30回（うち最大震度3が1回、最大震度2が11回）発生している。これまでの最大は、1月27日に発生したM4.2（最大震度2）の地震で、発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。

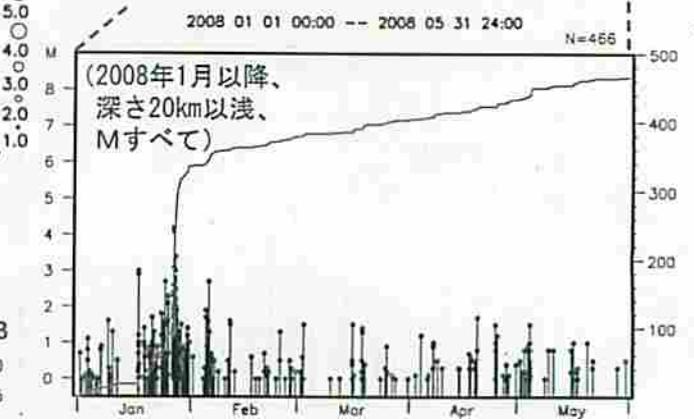
震央分布図（1997年10月以降、深さ25km以浅、 $M \geq 1.0$ ）
2007年11月以降を濃く表示



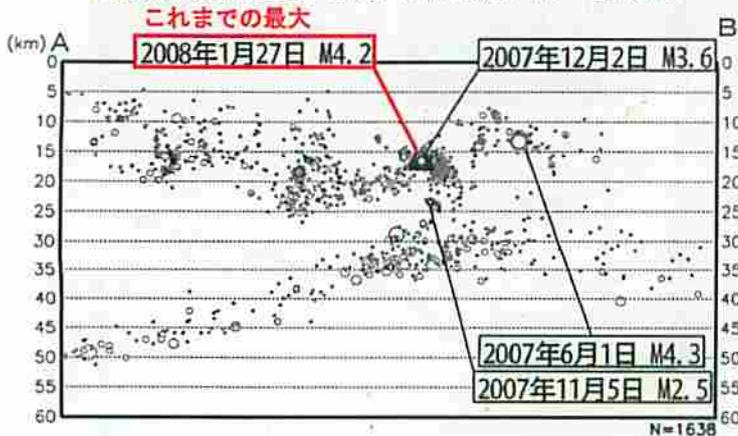
領域b内の地震活動経過図、回数積算図



領域b内の地震活動経過図、回数積算図



領域a内の断面図（深さ60km以浅、A-B投影）

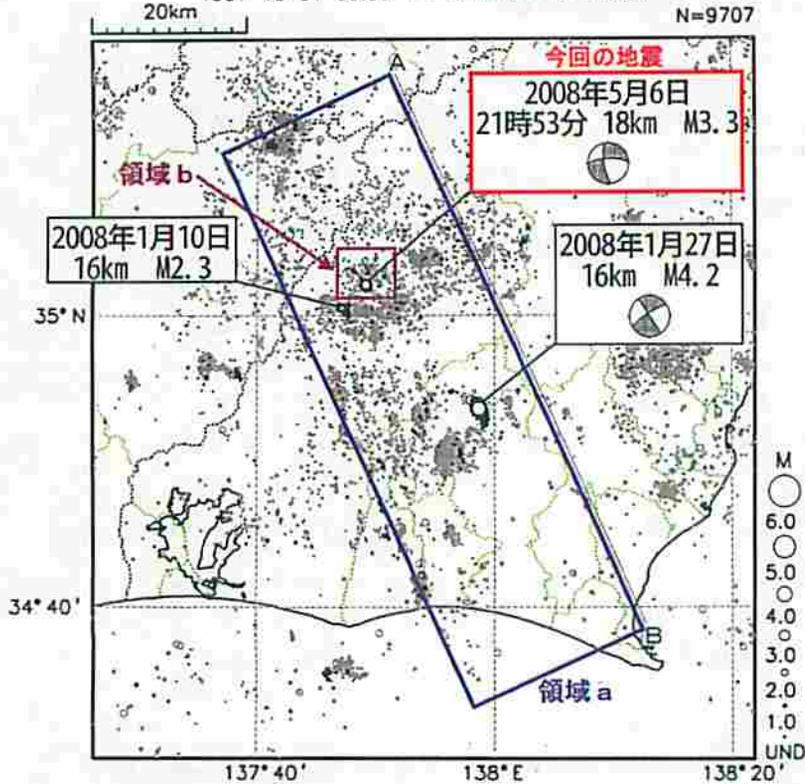


5月6日 静岡県西部の地震

震央分布図（1997年10月以降、深さ25km以浅、Mすべて）

2008年1月以降の地震を濃く表示。

1997 10 01 00:00 -- 2008 05 22 08:00

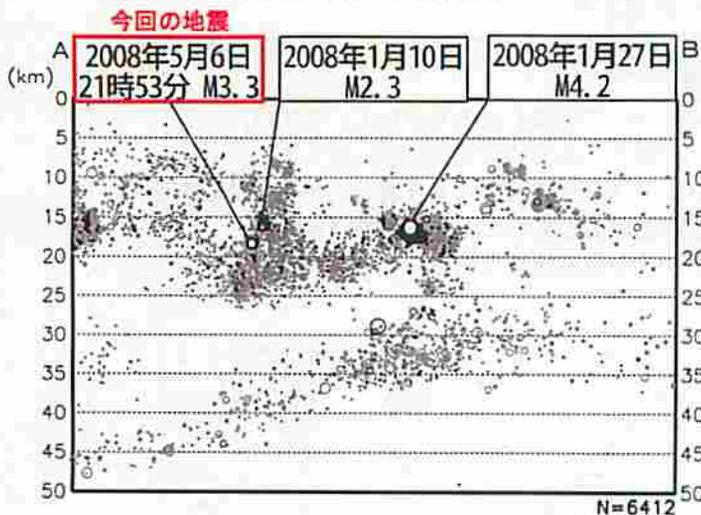


2008年5月6日21時53分に静岡県西部の深さ18kmでM3.3（最大震度2）の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、地殻内で発生した地震である。

今回の地震の震央は、2007年11月から地震活動（最大：1月27日M4.2）が発生している領域の北西約20kmに位置している。

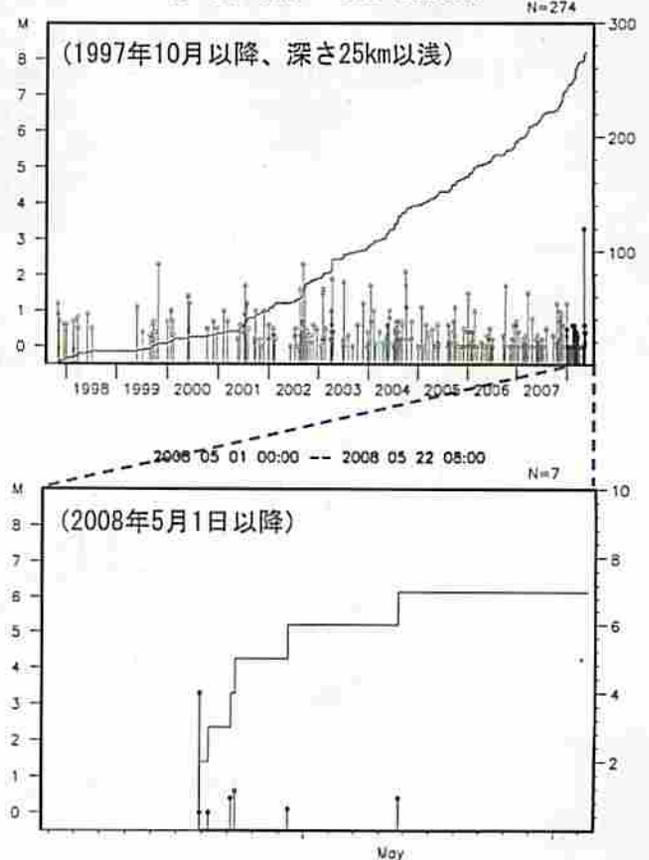
また、今回の地震の震源付近には、2007年10月頃から2008年3月頃にかけて発生した小規模な地震活動（最大：1月10日M2.3）など、微小地震のクラスタがある。これらのクラスタは、通常の地殻内で発生する地震（深さ5~15km）と、中間層で発生する地震（深さ15~25km）の震源が近接する場所に存在しており、周辺よりも地震活動域が鉛直方向に広く分布している。

領域 a 内の断面図（深さ 50km 以浅、A-B 投影）



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図

1997 10 01 00:00 -- 2008 05 22 08:00



東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2008年5月31日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	5	5	6	4	5	5	5	2
短期地震回数 (平均)	8 (6.31)	7 (5.91)	18 (13.23)	13 (14.08)	3 (2.46)	7 (5.99)	4 (3.53)	2 (6.06)
中期活動指数	7	5	6	4	3	3	4	2
中期地震回数 (平均)	27 (18.93)	20 (17.74)	47 (39.68)	45 (42.24)	3 (4.93)	9 (11.99)	6 (7.06)	7 (12.12)

* Mしきい値： 固着域、愛知県、浜名湖：M \geq 1.1、駿河湾：M \geq 1.4

* クラスタ除去： 震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

固着域、愛知県、浜名湖： $\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$

駿河湾： $\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$

* 対象期間： 固着域、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖、駿河湾：短期90日間、中期180日間

* 基準期間： 固着域、愛知県：1997年-2001年（5年間）、浜名湖：1998年-2000年（3年間）、

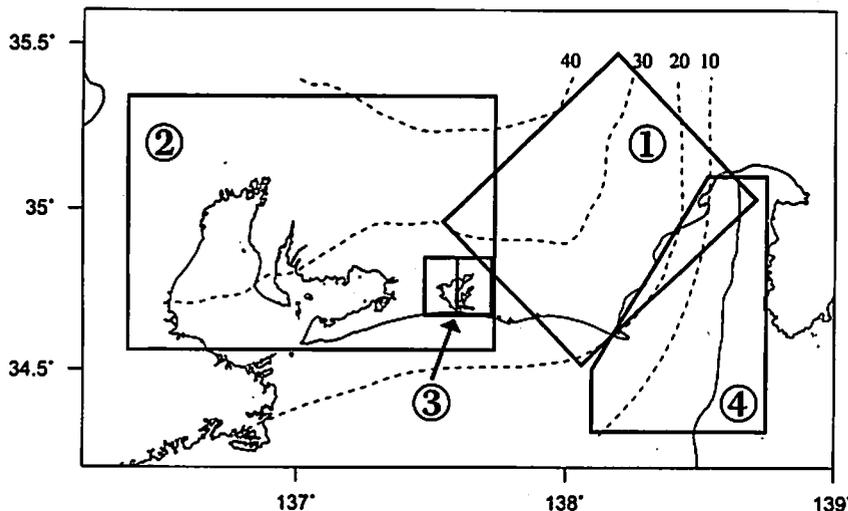
駿河湾：1991年-2000年（10年間）

[各領域の説明] ① 固着域：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域。

② 愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③ 浜名湖：固着域の縁。長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④ 駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。



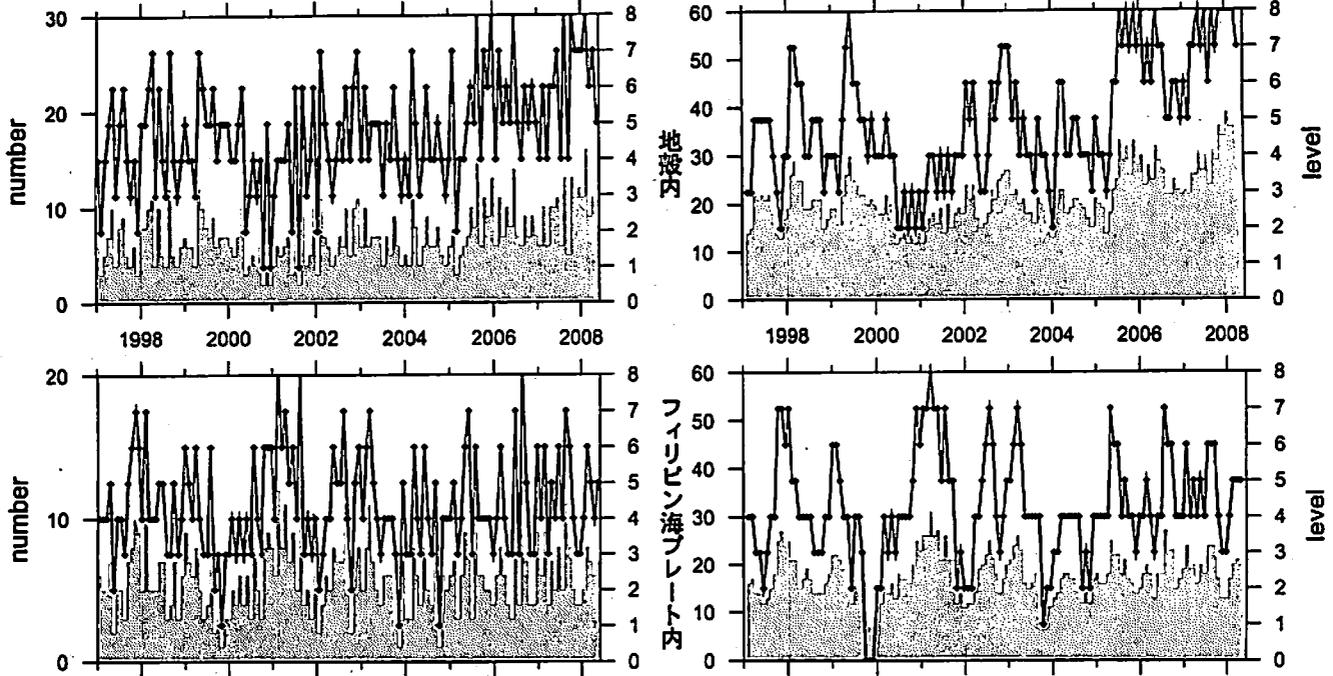
* プレート境界の等深線を破線で示す。

指数	確率 (%)	地震数
8	1	多
7	4	↑
6	10	
5	15	
4	40	平常
3	15	↓
2	10	
1	4	
0	1	少

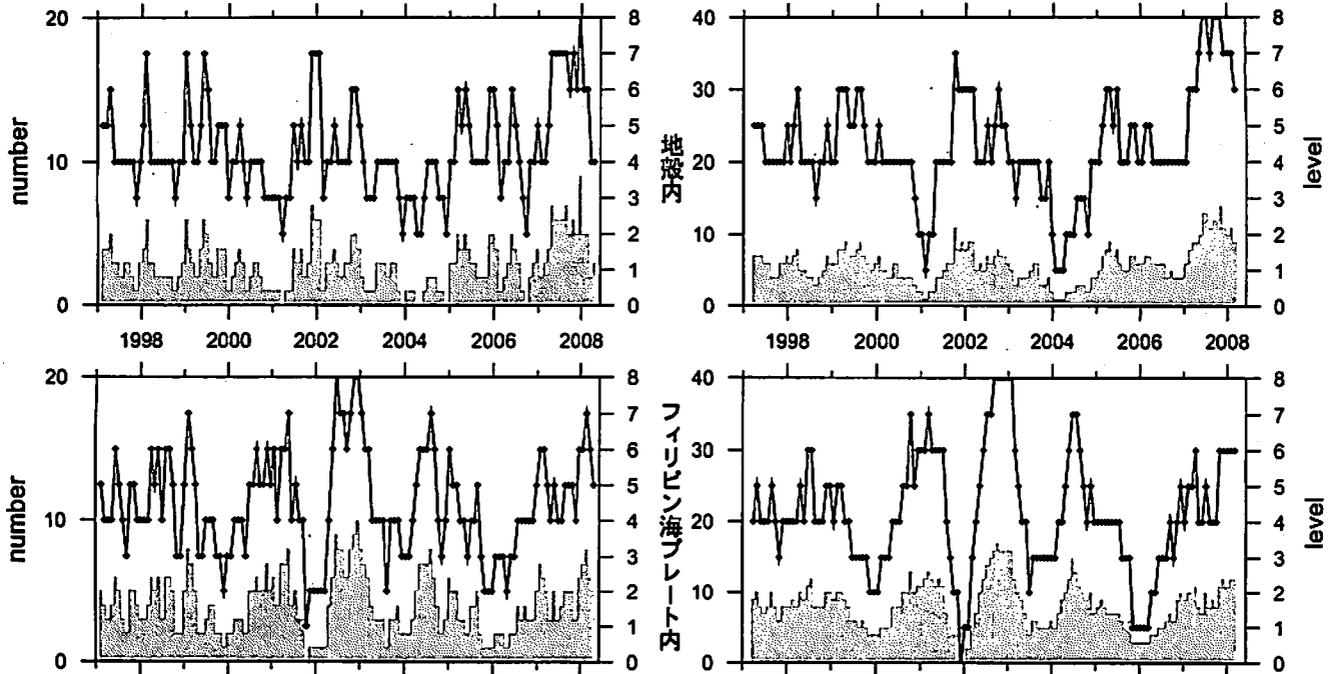
地震活動指数の推移

① 固着域

(30日) 1997/1/1~2008/5/31 M ≥ 1.1 (90日)



(90日) 1997/1/1~2008/5/31 M ≥ 2.0 (180日)

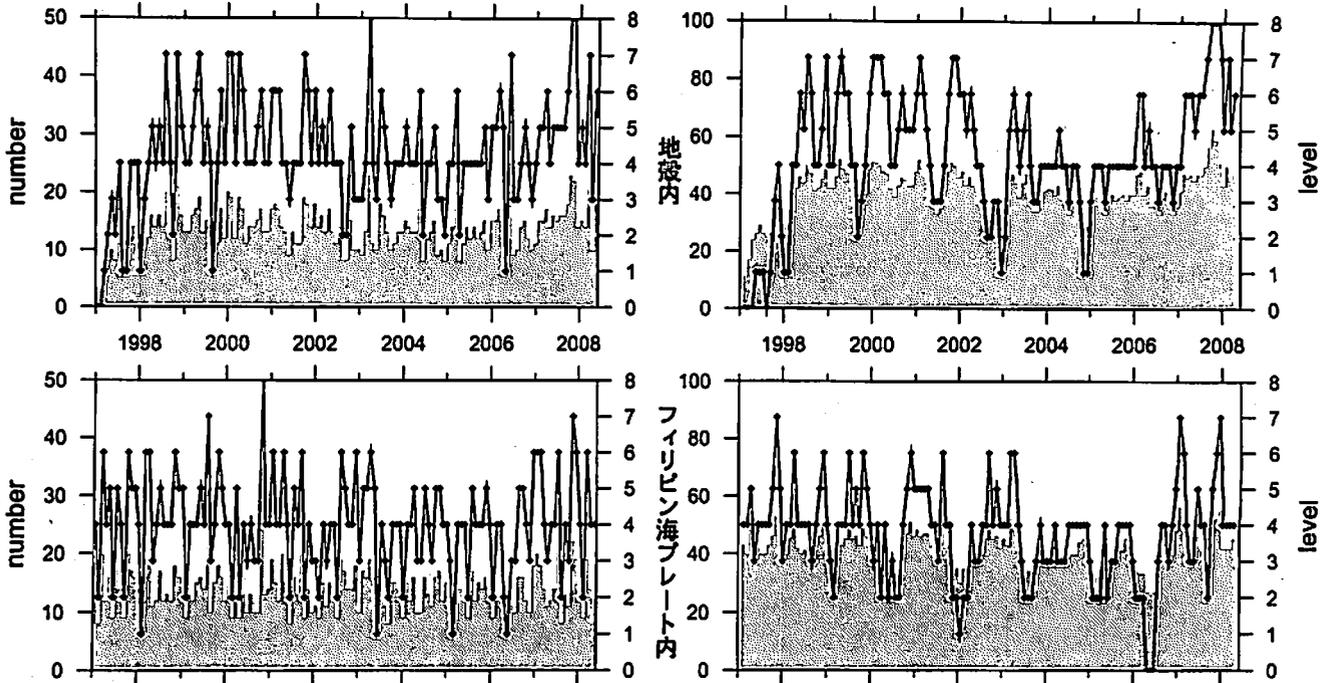


/ : 地震活動指数 (0-8)
 □ : 地震回数 (クラスタを除く)

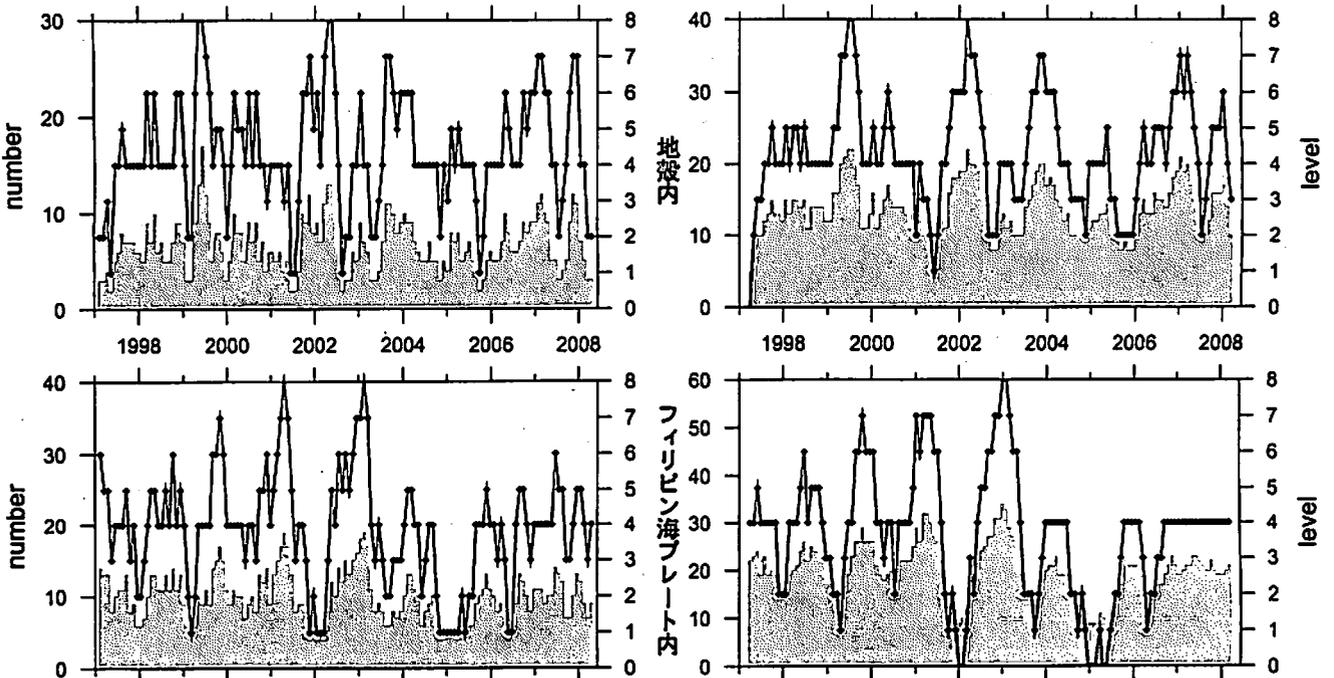
地震活動指数の推移

② 愛知県

(30日) 1997/1/1~2008/5/31 M ≥ 1.1 (90日)



(90日) 1997/1/1~2008/5/31 M ≥ 2.0 (180日)

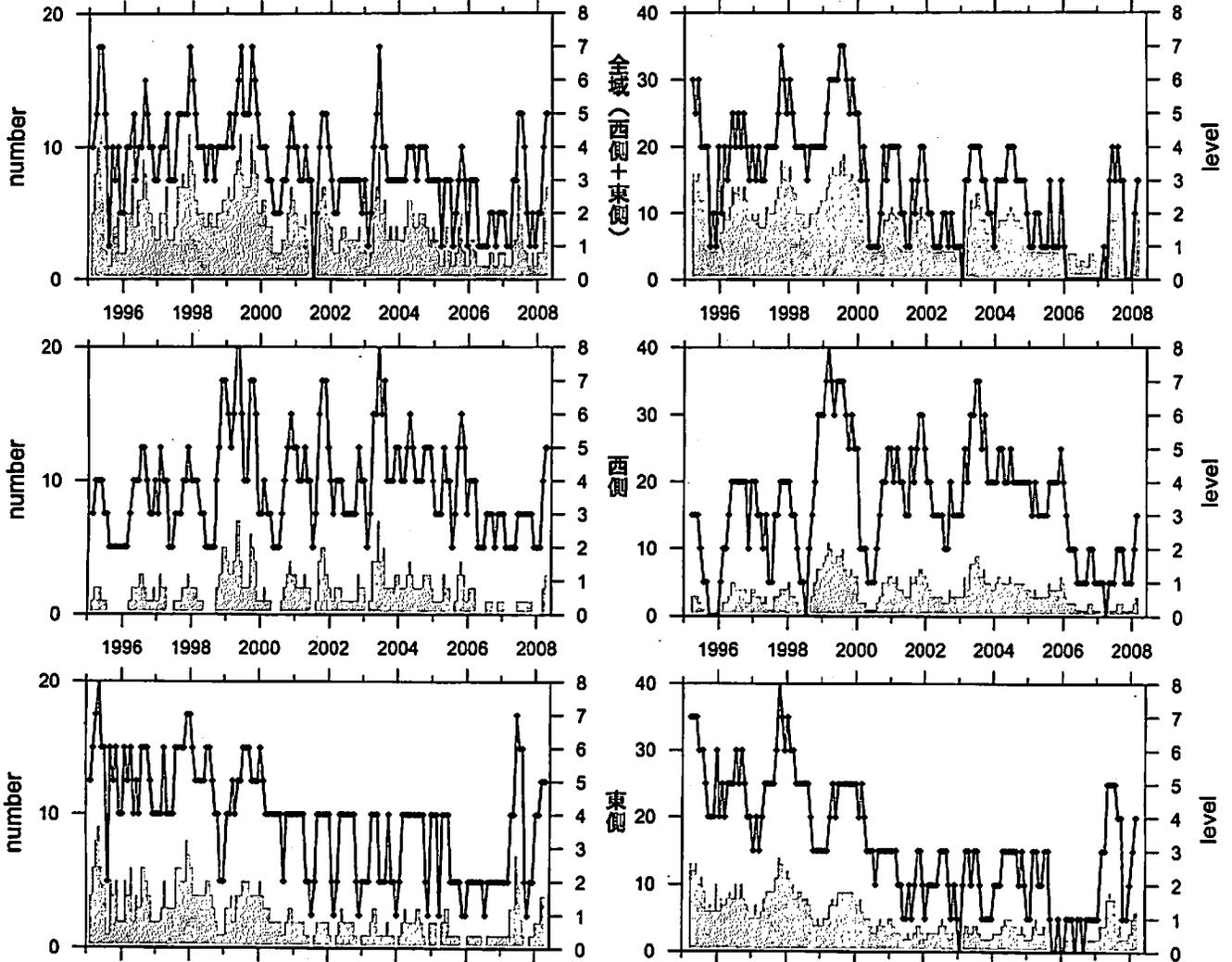


— : 地震活動指数 (0-8)
 □ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

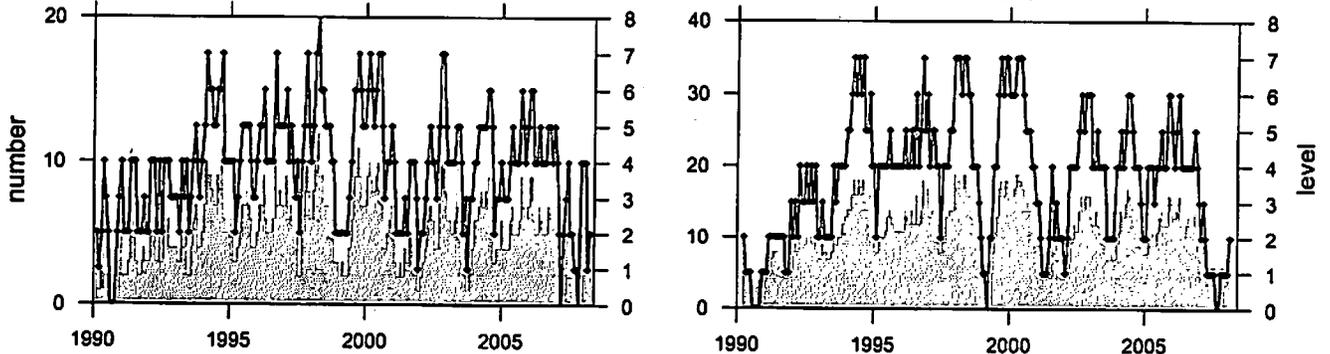
③ 浜名湖

(90日) 1995/ 1/ 1~2008/ 5/ 31 M ≥ 1.1 (180日)



④ 駿河湾

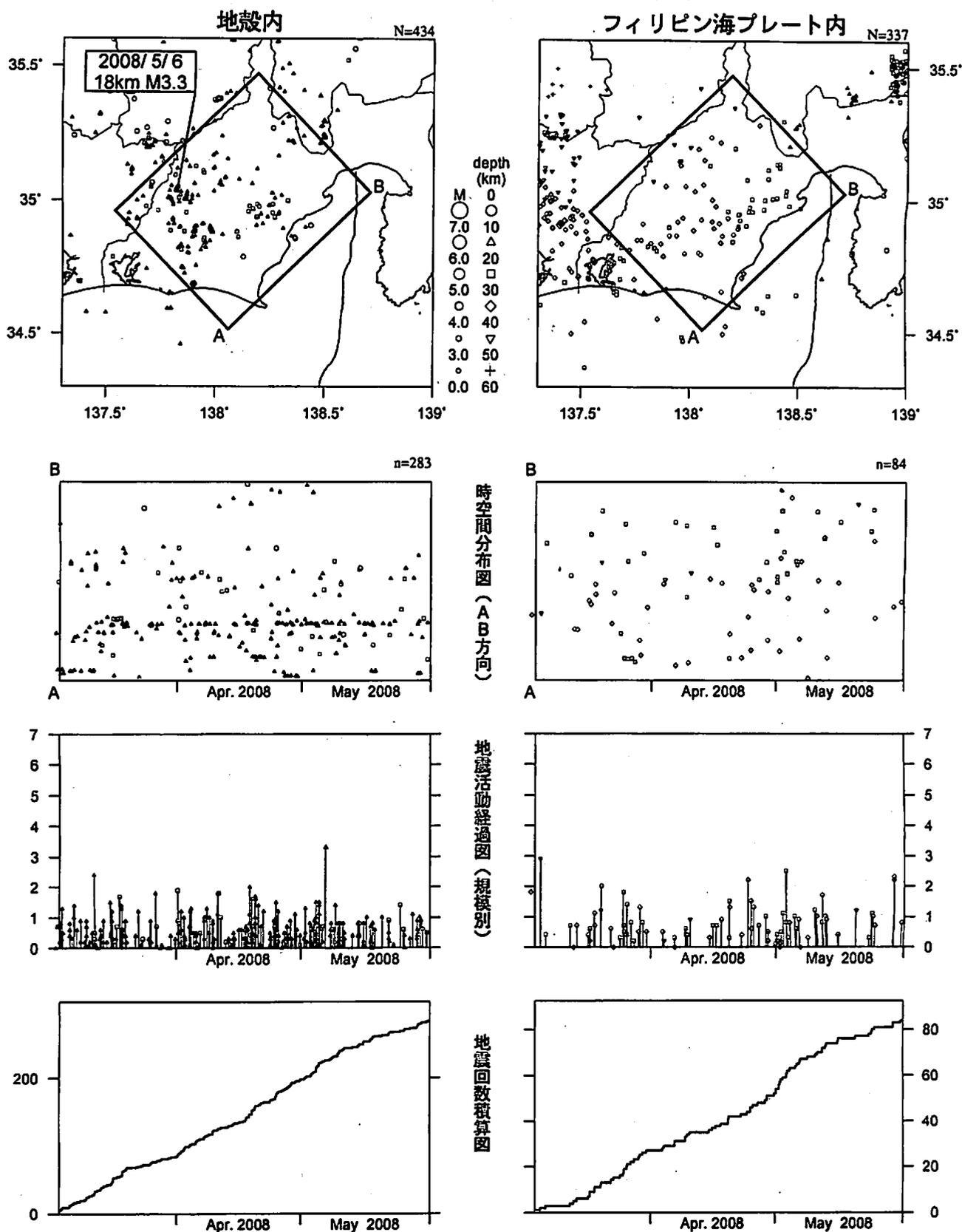
(90日) 1990/ 1/ 1~2008/ 5/ 31 M ≥ 1.4 (180日)



— : 地震活動指数 (0-8)
 ■ : 地震回数 (クラスタを除く)

固着域 (最近90日)

2008/3/3~2008/5/31 M ≥ 0.0 0 ≤ 深さ(km) ≤ 60



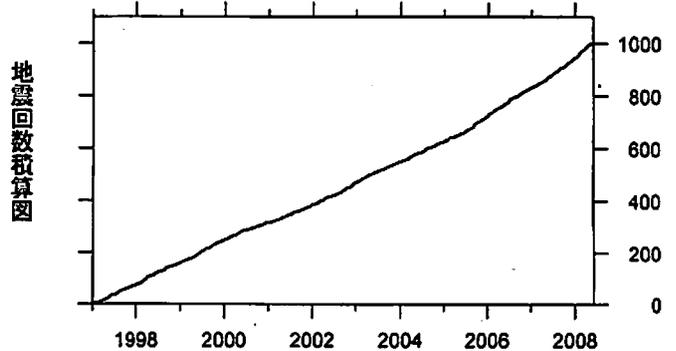
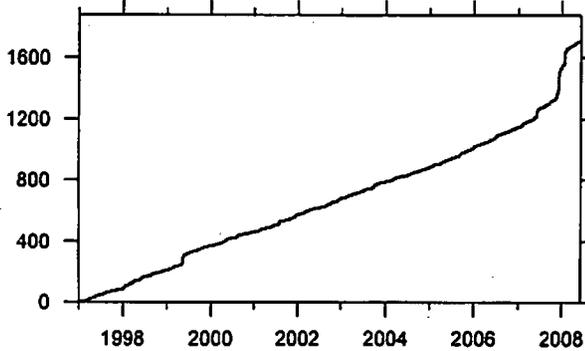
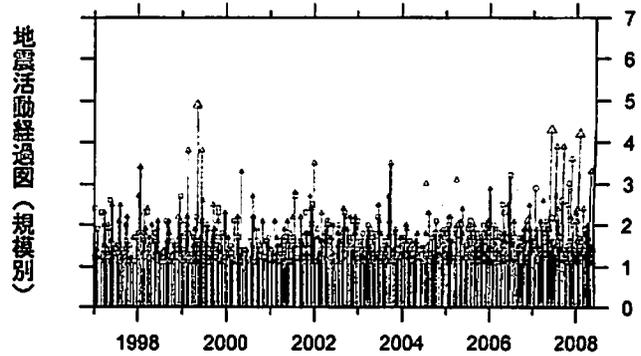
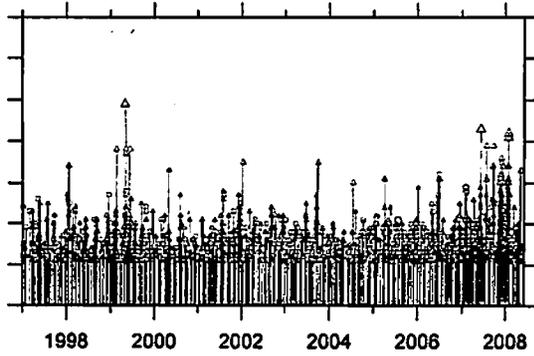
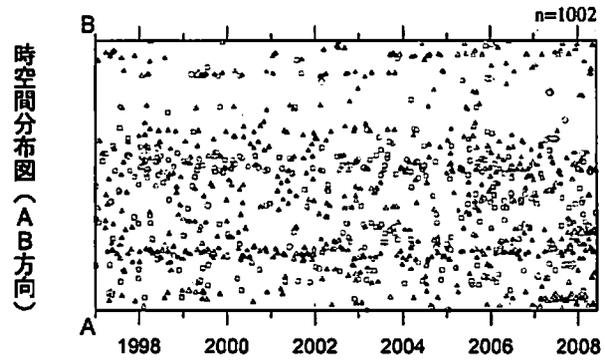
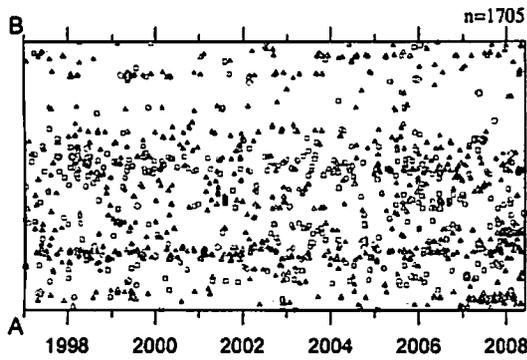
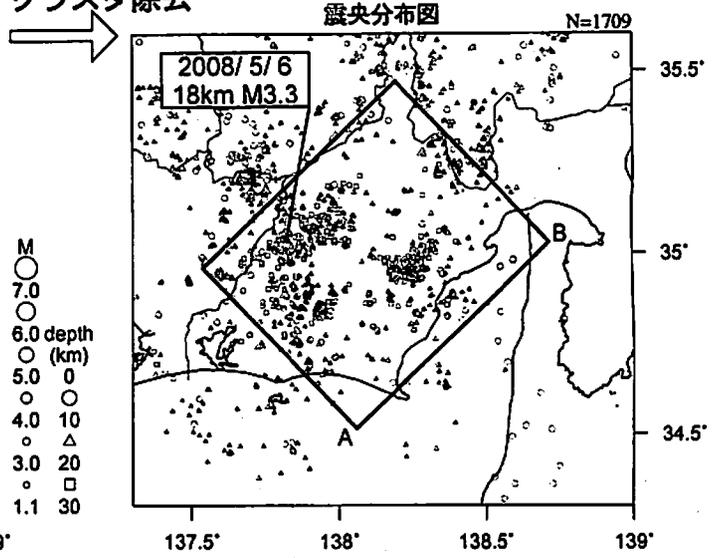
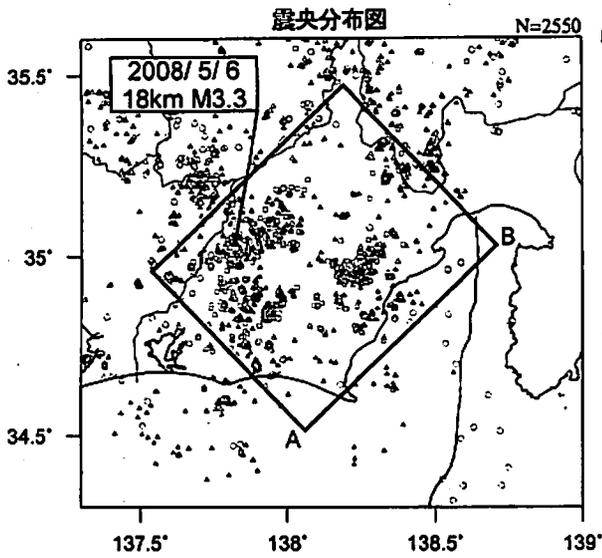
* 吹き出しはM≥3.0

地殻内で2007年11月半ばから活発な静岡県西部(森町と掛川市の境界付近)の地震活動は、低いレベルで継続している。2008年5月6日にはその北西でM3.3の地震が発生したが、特に地震活動の活発化は見られなかった。プレート内では特に目立った地震活動はない。

固着域（地殻内）

1997/1/1~2008/5/31 M ≥ 1.1

クラスタ除去



* 吹き出しは最近60日以内、M ≥ 3.0
最近60日以内の地震を濃く表示

静岡県西部の地震活動活発化は、1997年以降では珍しい規模の回数増加であった（左下）。クラスタ除去後の地震回数積算図（右下）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急で活発、その後2005年半ばまでは低調、2005年半ば以降は活発、という傾向が見られる。

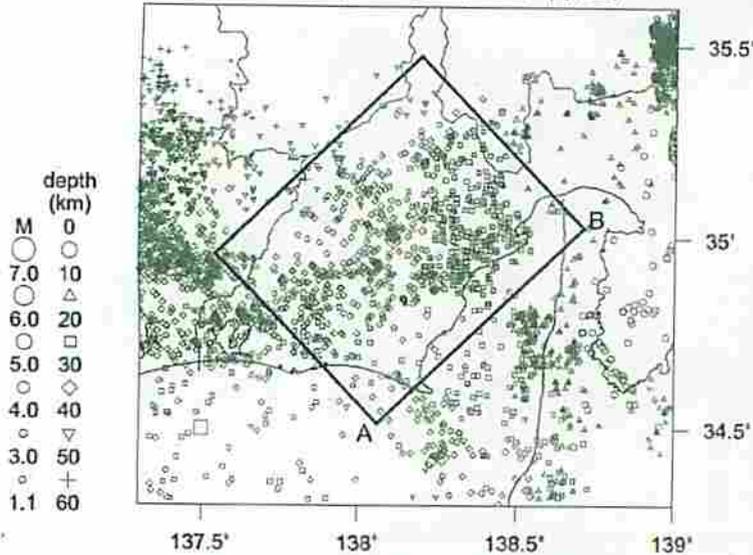
気象庁作成

固着域（フィリピン海プレート内）

1997/1/1～2008/5/31

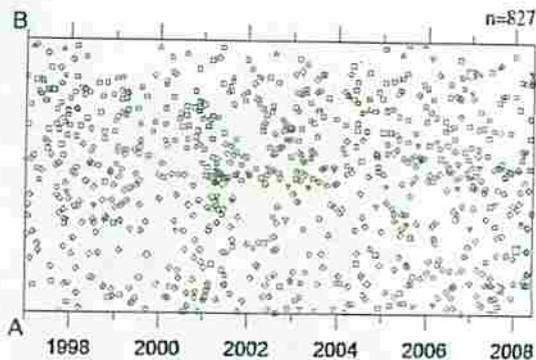
[M1.1 以上]

震央分布図（クラスタ除去）

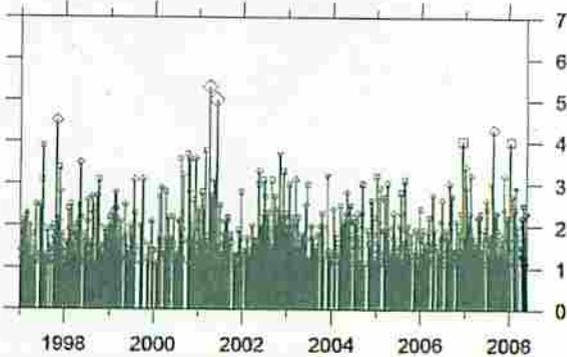


最近 60 日以内の地震を濃く表示

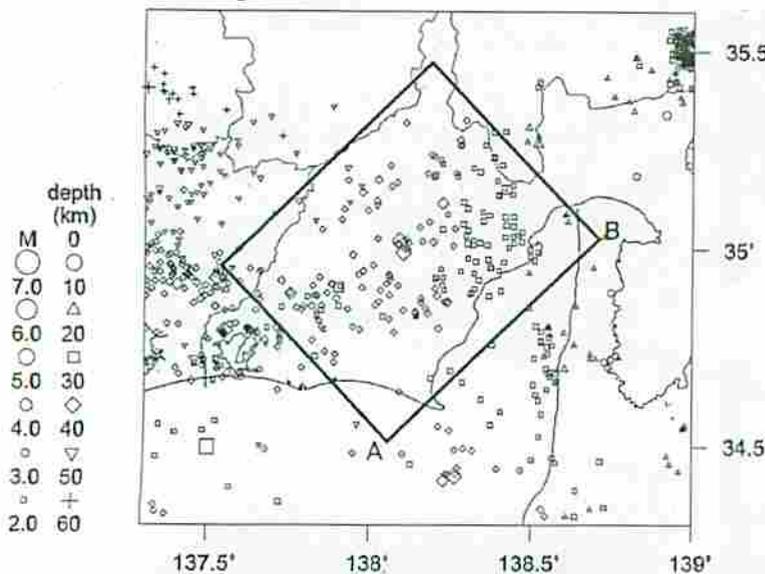
時間分布図（A B 方向）



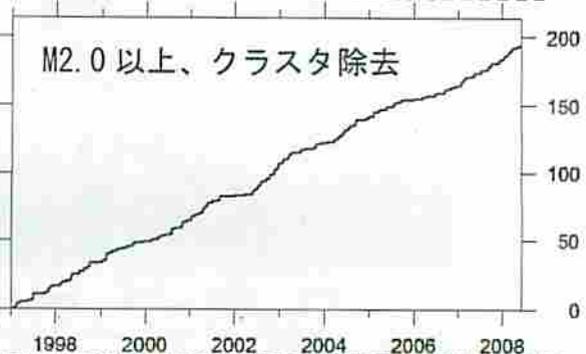
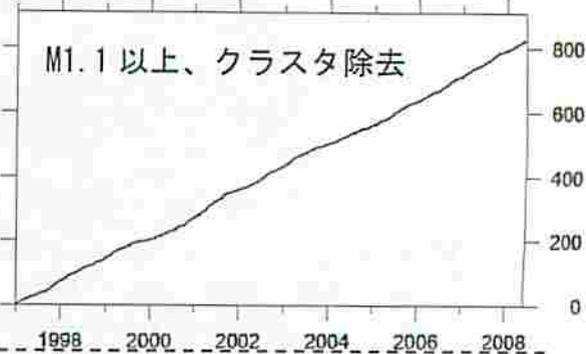
地震活動経過図（規模別）



[M2.0 以上]

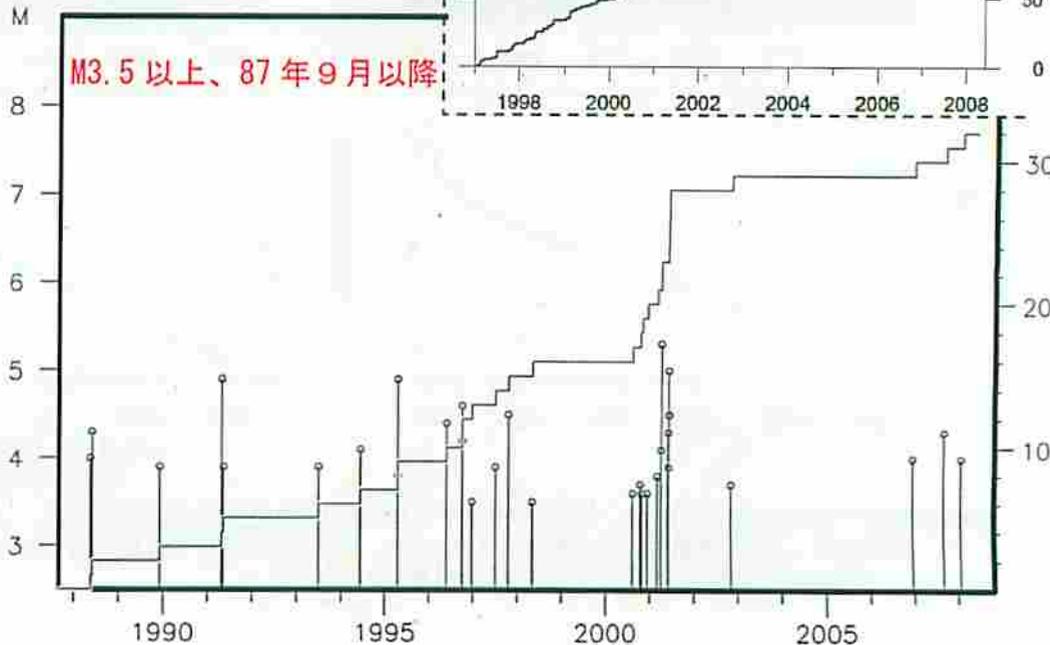


地震回数積算図

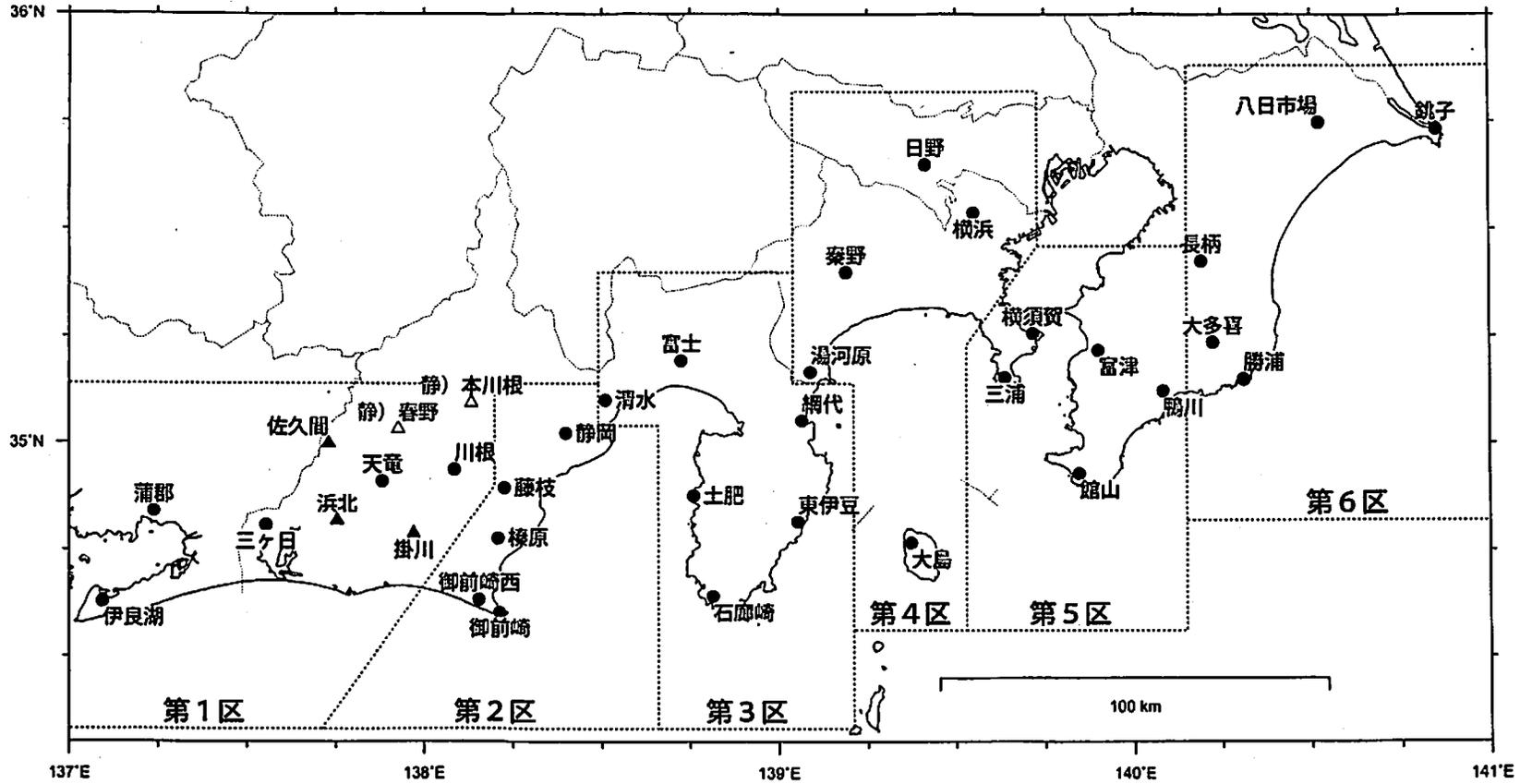


[M3.5 以上]

2001 年後半ごろから M3.5 以上の地震発生回数が少ない。そのような状況の中、2006 年 12 月 16 日 M4.0、2007 年 8 月 31 日 M4.3、2008 年 1 月 20 日に M4.0 の地震が発生した。98 年後半～2000 年前半にも静穏な時期があった。M2.0 以上では、2005 年半ば以降やや静穏であったが 2007 年に入って回復。



埋込式歪計の配置図

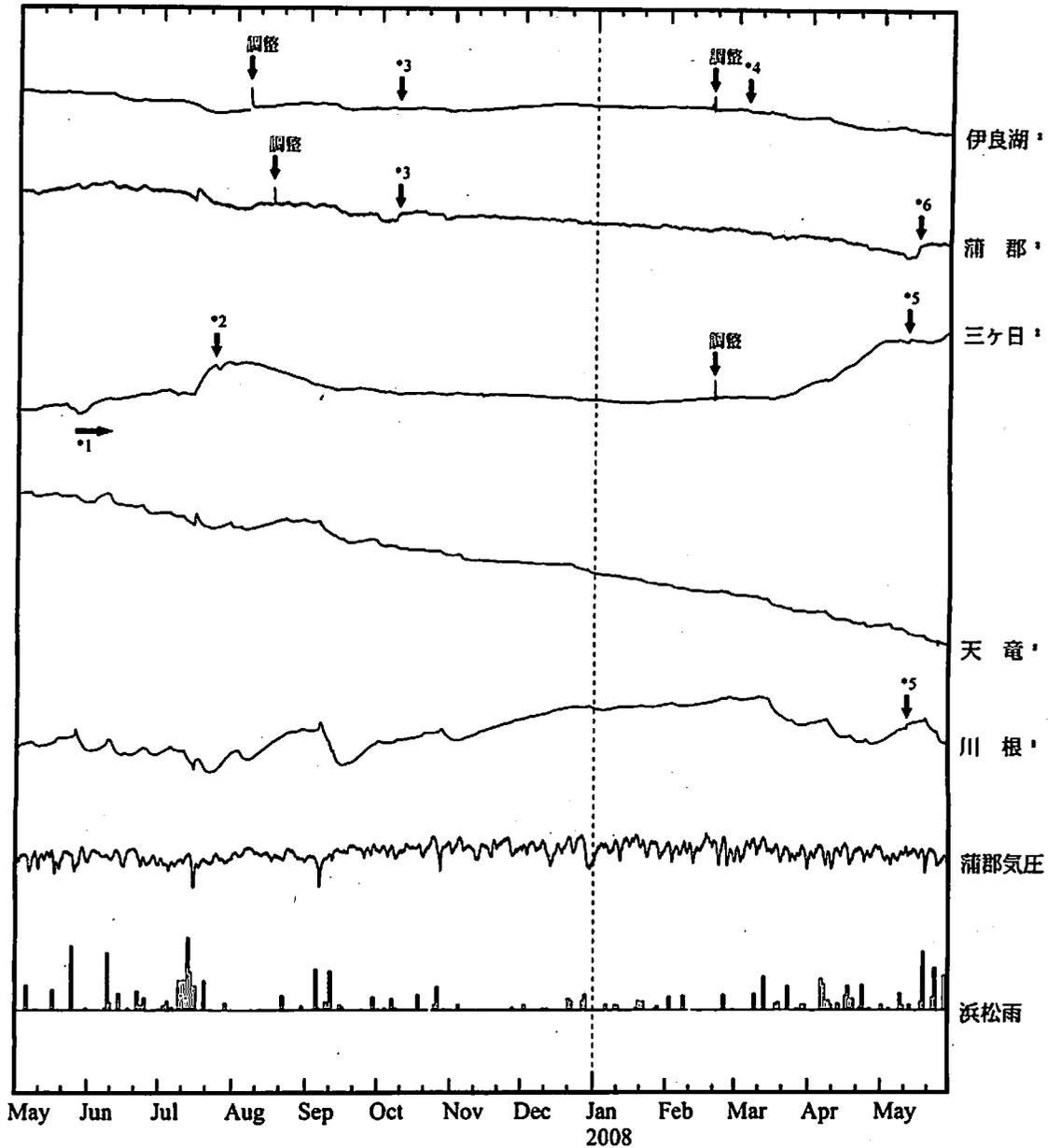


- : 体積歪計
- ▲ : 多成分歪計
- △ : 多成分歪計 (静岡県整備)

地殻体積歪変化 時間値 (第1区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day



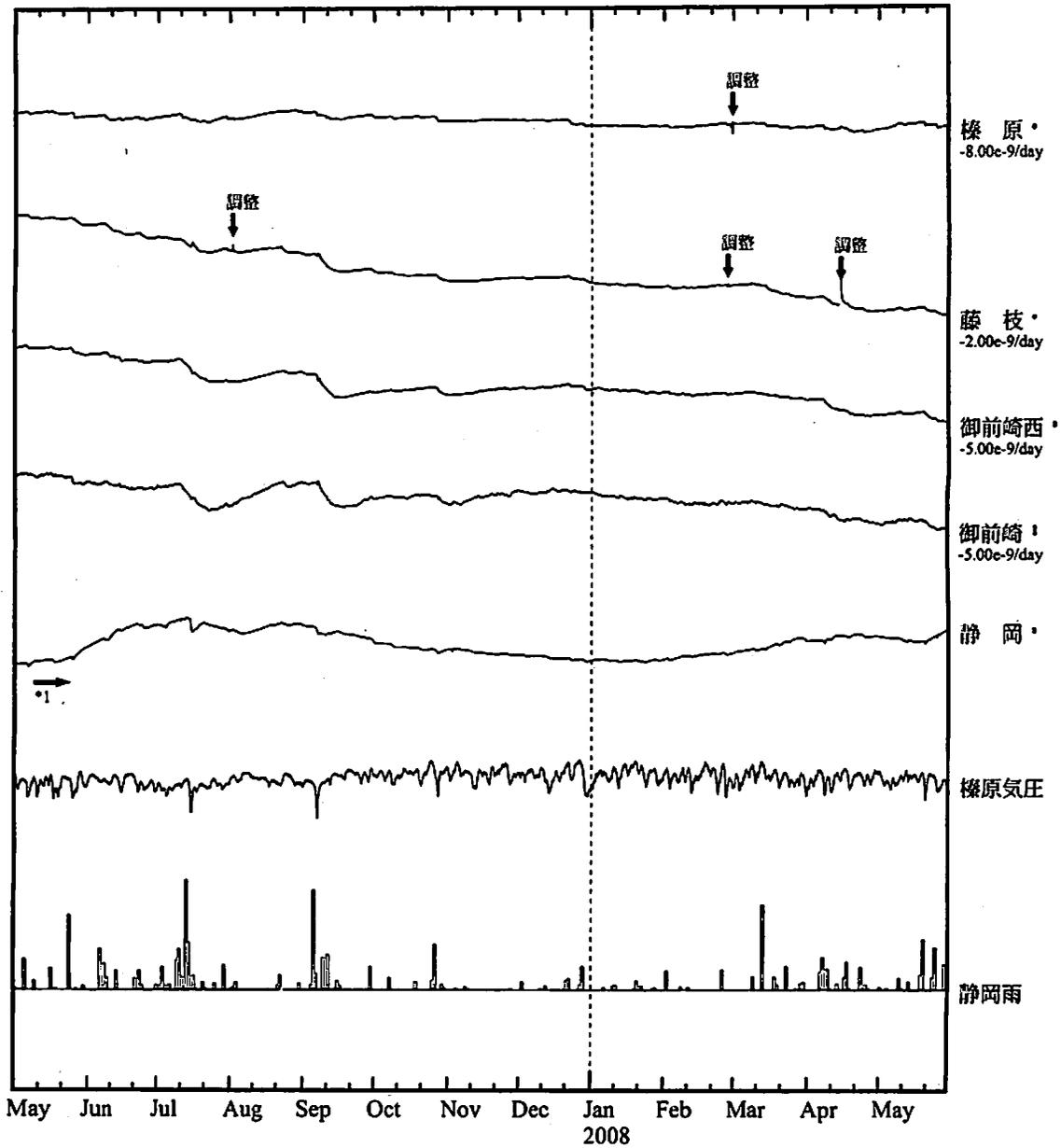
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

- *1: 三ヶ日で降水に伴う局所的な変化が見られた。
- *2: 三ヶ日で2007年7月下旬に見られる縮みとその後の回復の変化は、毎年夏に見られるものであると思われる。
- *3: 伊良湖及び蒲郡で2007年10月6日頃から12日頃にかけて歪変化が観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *4: 伊良湖で2008年3月2日頃から7日頃にかけて歪変化が観測された(第262回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *5: 2008年5月12日の中国四川省の地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化が見られた。
- *6: 蒲郡で2008年5月15日頃から19日頃にかけて歪変化が観測された。

地殻体積歪変化 時間値 (第2区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

Exp.
 ↑ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 50 mm/day



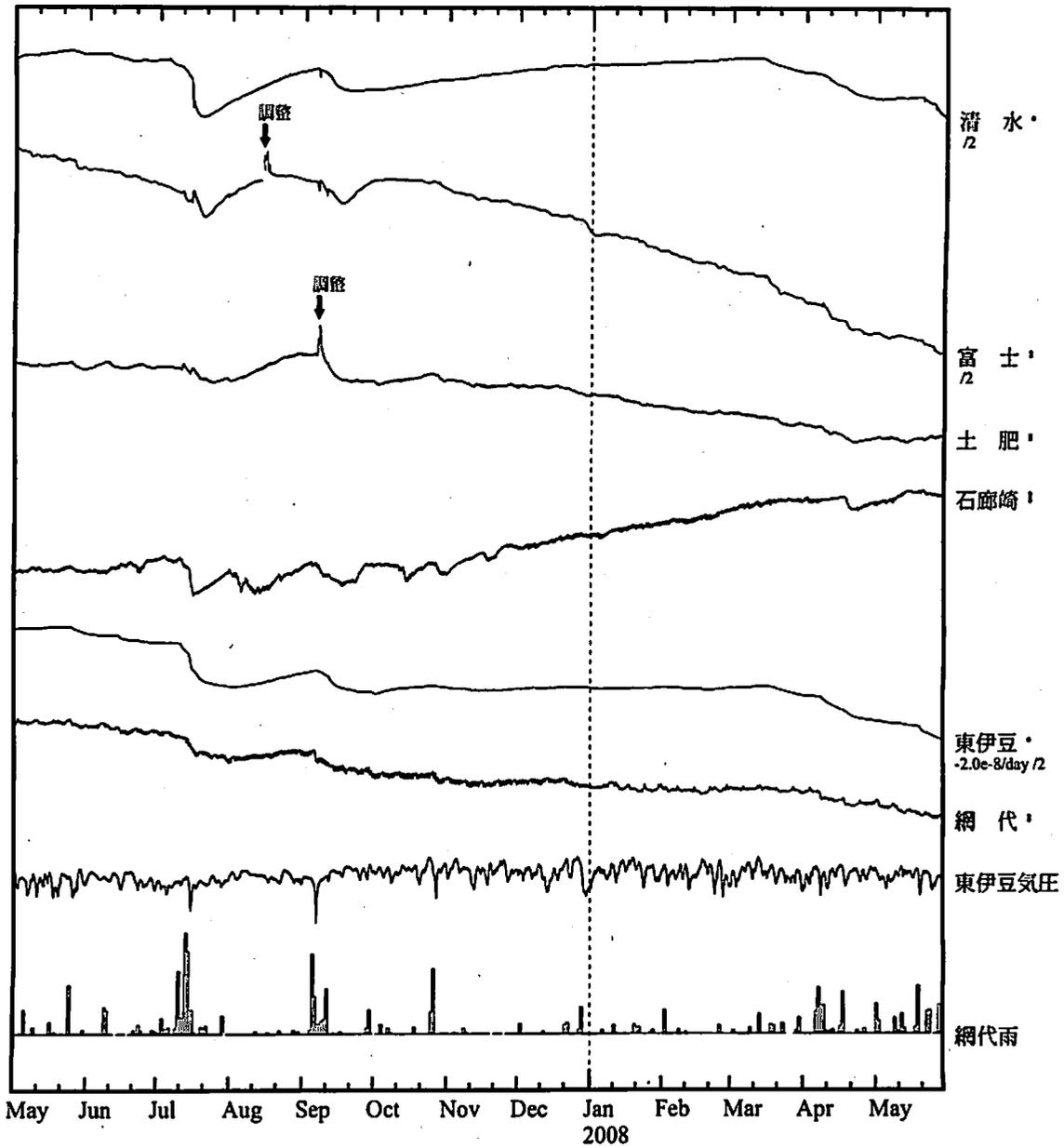
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

*1: 静岡の2007年5月以降の伸び変化とその後の縮み変化は、例年見られるものである。

地殻体積歪変化 時間値 (第3区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

Exp.
 ↑ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 50 mm/day



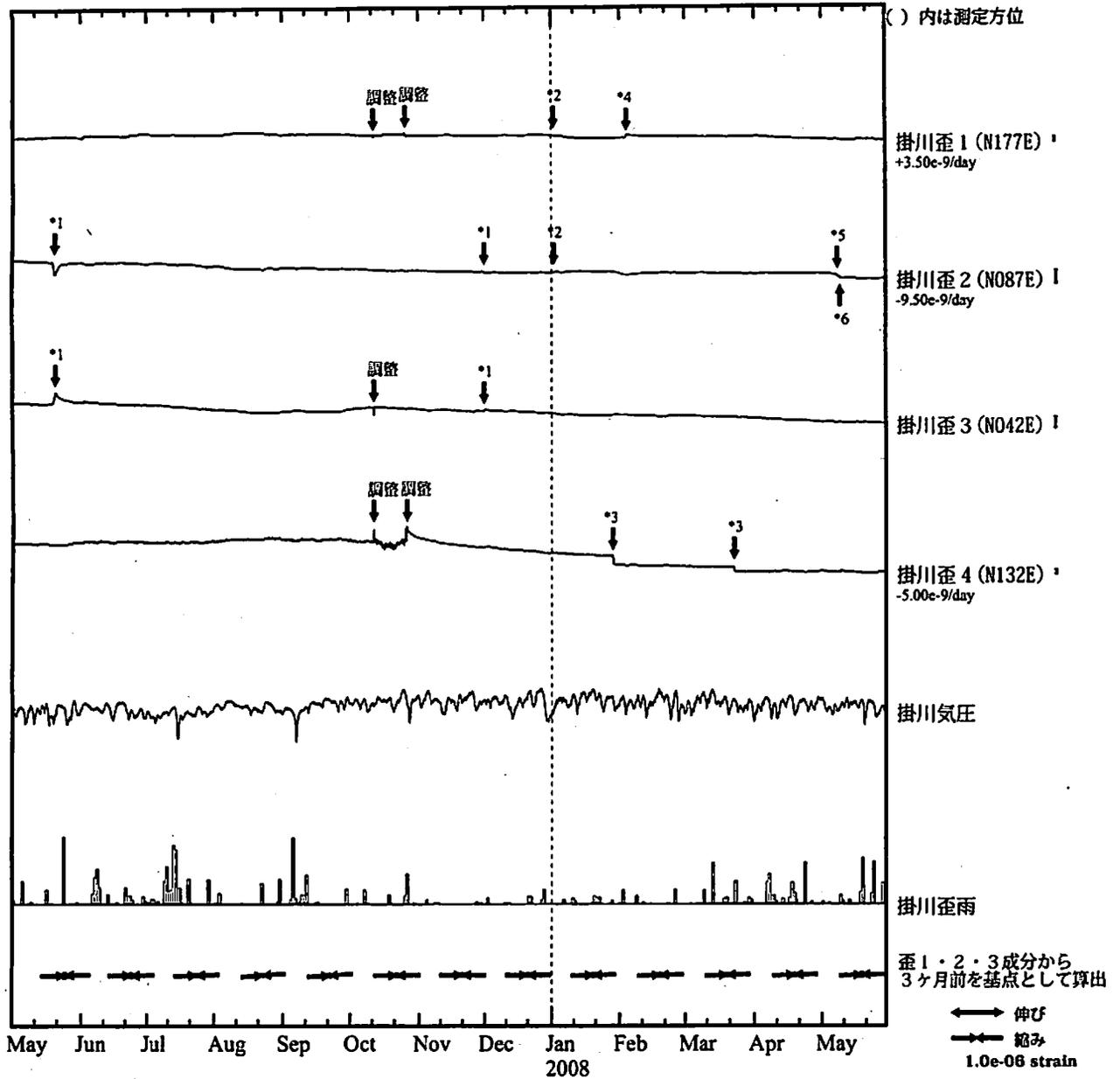
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

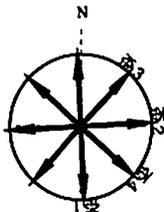
掛川歪変化 時間値

・気圧、潮汐、地磁気補正データ

Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



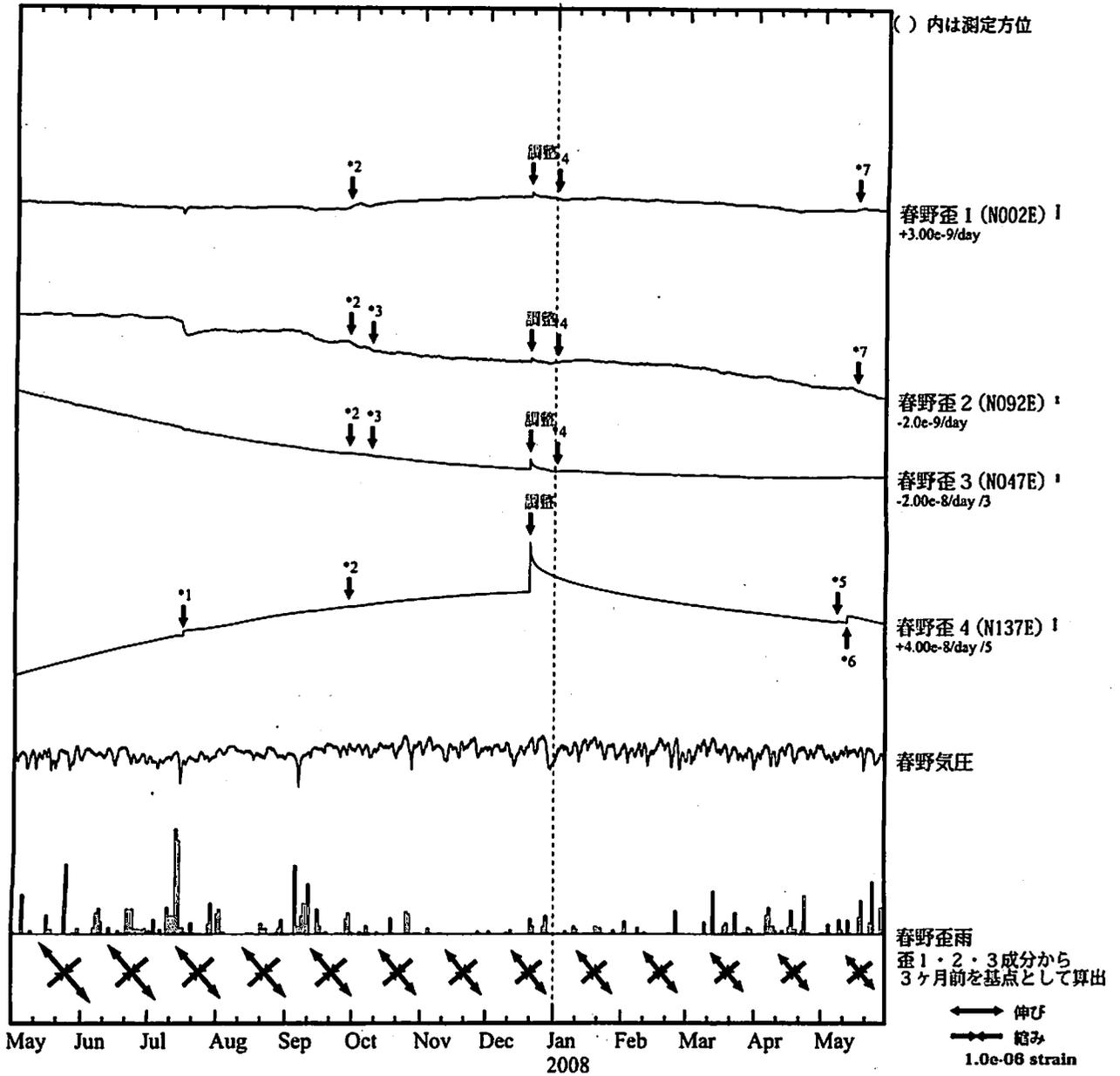
- *1: 2007年5月19日以降、及び、11月30日以降、歪2及び歪3でセンサーのごく近傍の局所的な変化が見られた。
- *2: 2008年1月1日頃から10日頃にかけて歪変化が観測された(第260回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *3: 2008年1月28日及び3月22日に歪4でセンサーのごく近傍の局所的な変化が見られた。
- *4: 2008年2月3日以降、歪1でセンサーのごく近傍の局所的な変化が見られた。
- *5: 2008年5月8日の茨城県沖の地震に伴うコサイスマミックなステップ状の変化が見られた。
- *6: 2008年5月9日に歪2でセンサーのごく近傍の局所的な変化が見られた。

気象庁作成

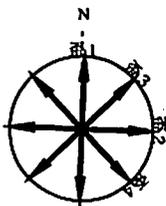
春野歪変化 時間値

・気圧、潮汐、地磁気補正データ

Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



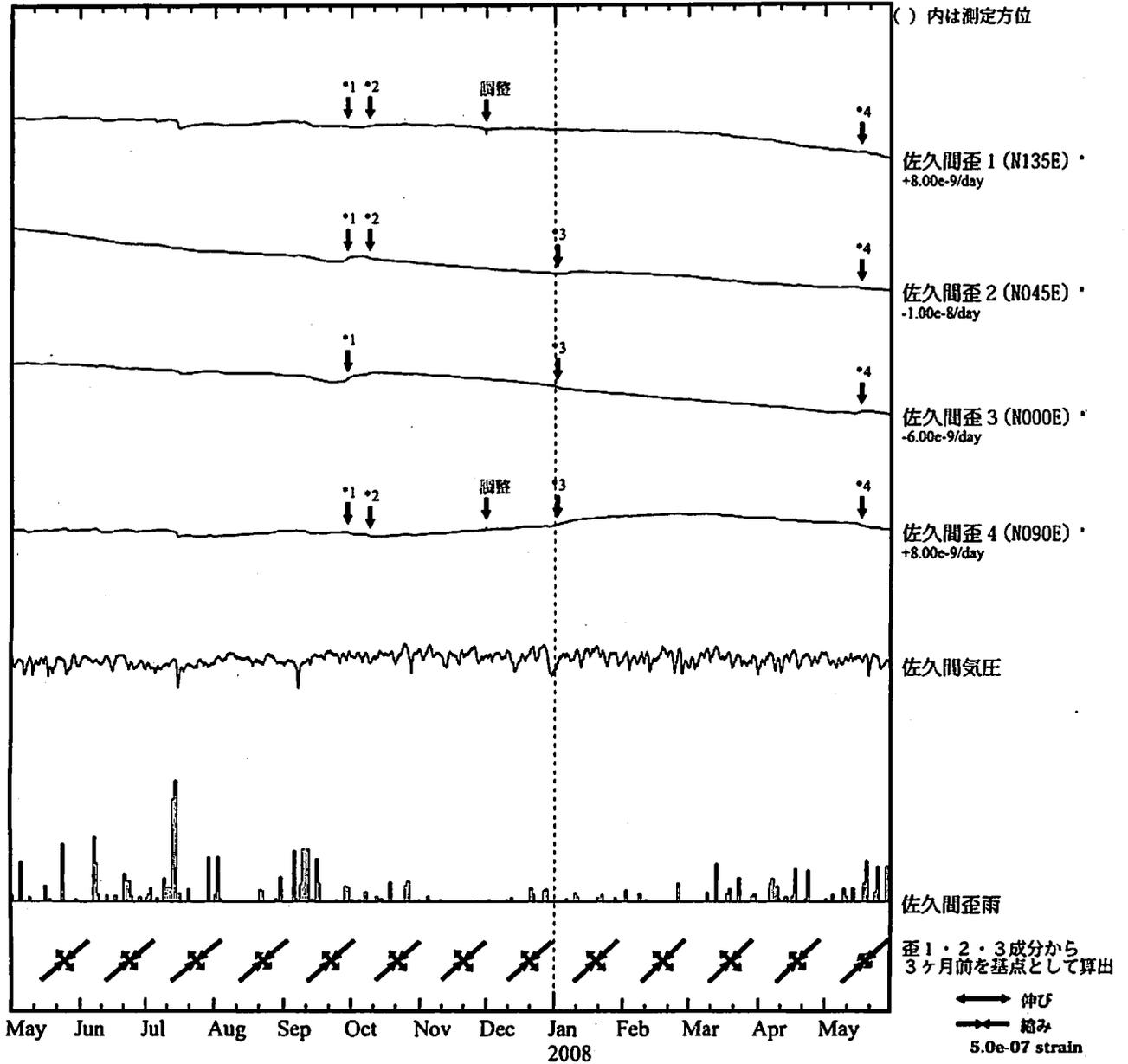
- *1: 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化が見られた。
- *2: 2007年9月26日頃から10月2日頃にかけて歪変化が観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *3: 2007年10月6日頃から12日頃にかけて歪変化が観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *4: 2008年1月1日頃から10日頃にかけて歪変化が観測された(第260回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *5: 2008年5月8日の茨城県沖の地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化が見られた。
- *6: 2008年5月12日の中国四川省の地震に伴うコサイスミックなステップ状の変化が見られた。
- *7: 2008年5月15日頃から19日頃にかけて歪変化が観測された。

気象庁作成

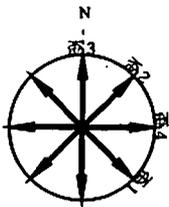
佐久間歪変化 時間値

・気圧, 潮汐, 地磁気補正データ

Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の变化の幅(ノイズレベル)を示す。

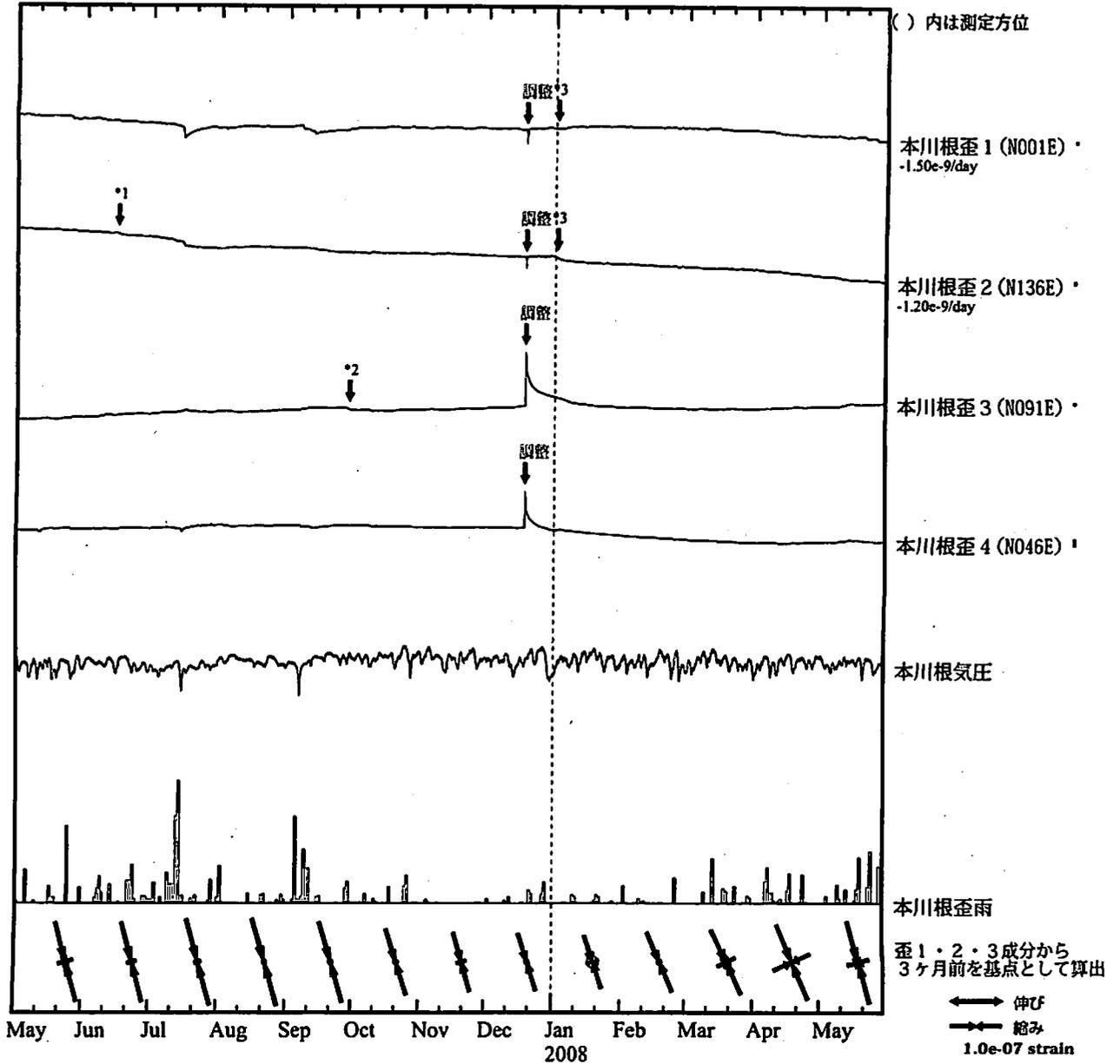


- *1: 2007年9月26日頃から10月2日頃にかけて歪変化が観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *2: 2007年10月6日頃から12日頃にかけて歪変化が観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *3: 2008年1月1日頃から10日頃にかけて歪変化が観測された(第260回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *4: 2008年5月15日頃から19日頃にかけて歪変化が観測された。

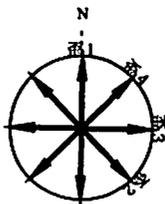
本川根歪変化 時間値

・気圧, 潮汐, 地磁気補正データ

Exp.
 ↑ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

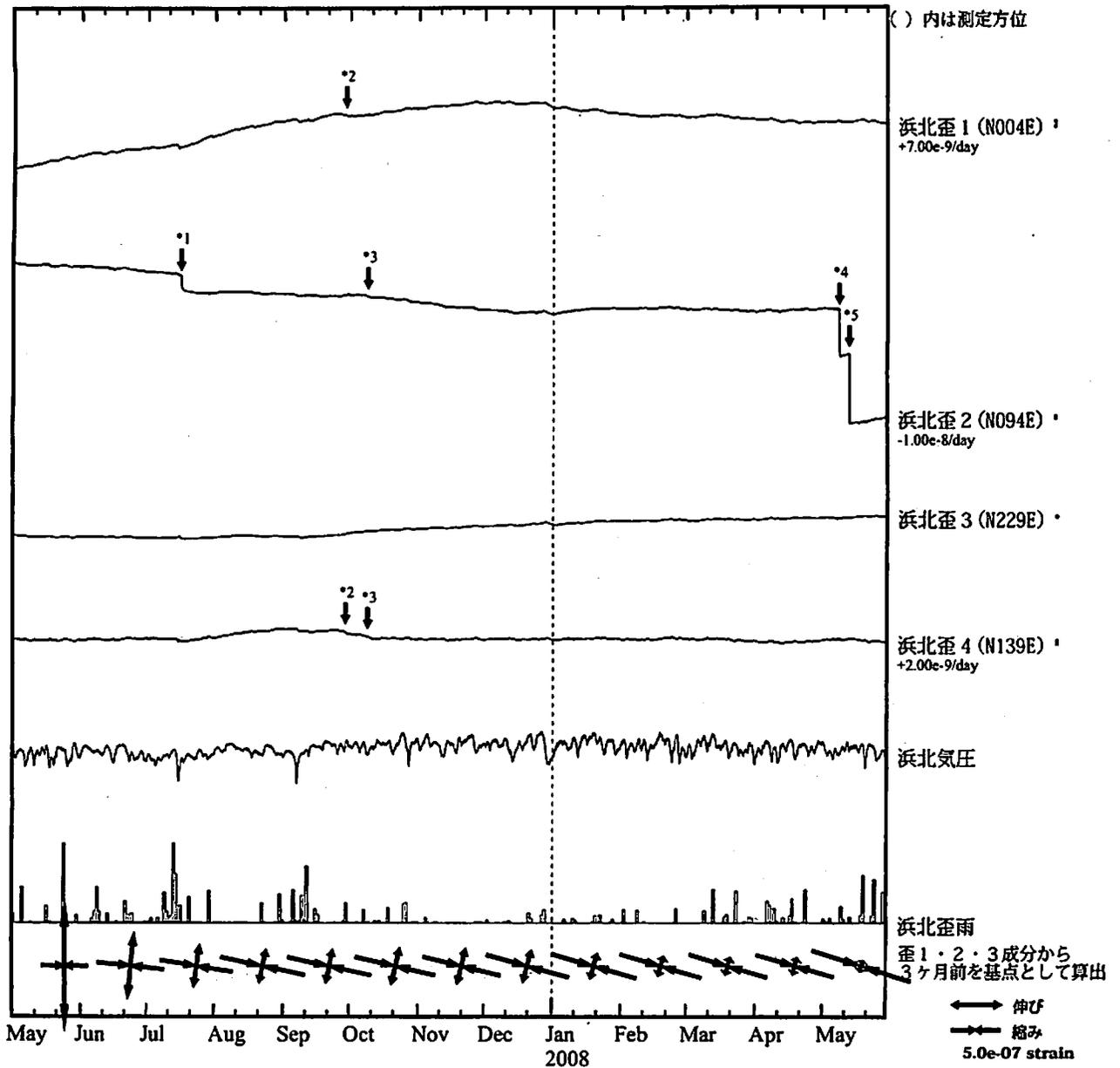


- *1: 2007年6月15日頃から17日頃にかけて歪変化が観測された(第253回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *2: 2007年9月26日頃から10月2日頃にかけて歪変化が観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *3: 2008年1月1日頃から10日頃にかけて歪変化が観測された(第260回判定会委員打合せ会資料参照)。

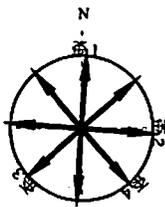
浜北歪変化 時間値

・気圧、潮汐、地磁気補正データ

Exp.
 ↑ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 50 mm/day



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



- *1: 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化が見られた。
- *2: 2007年9月26日頃から10月2日頃にかけて歪変化が観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *3: 2007年10月6日頃から12日頃にかけて歪変化が観測された(第257回判定会委員打合せ会資料参照)。
- *4: 2008年5月8日の茨城県沖の地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化が見られた。
- *5: 2008年5月12日の中国四川省の地震に伴うコサイスマックなステップ状の変化が見られた。